

Kial mi...
Jaro X, N-ro 12

...
DECEMBRO, 1929

LA REVUO ORIENTALA



JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO



第十年

第十二號

目次 (ENHAVO)

現在の一念	大橋 介二郎	353
海外報道		354
内地報道		356
エスペラント初等講義	城戸 崎益敏	362
エスペラント中等講義	松本 清彦	364
最新國際語 Novial	小坂 狷二	366
日支親善にエスペラントを	栗飯原 晋	369
質疑應答	小坂 狷二	370
Notoj pri l' Bibliaj Vortoj	宇都宮 正	371
新刊紹介	大島 義夫	372
Malgranda Peĉjo		373
インドネジャ民族の物語	浅井 惠倫	376
Stranga Songo		378
拙著和エス辭典の批評に對し岡本氏に答ふ	金井 博治	380
更めて金井氏へ	岡本 好次	382
會員の聲・編輯後記		384
附録、第十七回日本エス大會報告		
編輯者——伊藤己酉三	表紙——江上武夫	飾繪——大橋介二郎

例會兼研究會

日時・場所——毎水曜午後7時から學會で
會費——無料
用書——Hamleto

常設講習會

- ◆初等科 (休講)
- ◆中等科 隨時入會可
- 日時 毎週金曜午後7時
- 場所 學會階上講習室
- 會費 毎月50錢(前納の事)
- 用書 Diablidoj

ザメンホフ祭

(會話練習會を兼ね)

日時——12月14日(第二土曜)午後正7時
場所——丸ノ内鐵道クラブ(永樂町電停より南へ折れ日活本社横手より右折せる奥の二階建木造)
話者——雌、雄及び間性
帝大教授 大島廣氏
會費——15 錢 (初學者歓迎)
當日會場にて書籍を割引即賣します



La Revue Orientale

JARO X, N-RO 12

DECEMBRO, 1929

現在の一念

大橋 介二郎

ザメンホフの人類愛の一念の前には世界の廣さも時間の長さも何の脅威ともならなかつた。彼には空間と時間を超越して居たと言へる。世界の廣さと時間の永さに脅威を感じて居たならば、彼は終に彼の大業を成し遂げ得なかつたらう。唯彼の一念こそは正に此の二者を超越せしめたのであつた。

後に續く我等も、亦此の二者を超越しなければならない。エスペラントはザメンホフの本願であると同時に萬人の本願である。只萬人が萬人ともに此の本願を見出し得て居ない處に Batalanto の精進があるのである。

ザメンホフによつて過去、未來は無價値であつた。彼は實に常に常に現在の一念に忠實であつた。その現在の一念の中には永劫の過去と未來は收められて居たのであつた。無量壽經と云ふ經文に『譬へば大海の如きも、一人升量して劫數を経歴せば、尙底を窮めて、其の妙寶を得べし、人至心有りて、精進に道を求めて止すべし、かならず當に尅果すべし、何の願か得ざらん』と云ふ文がある。大海の水を一人で汲み乾して底にある妙寶を得るなど、云ふ事は尋常には考へられぬ事である。何故考へられないか、餘りに時間が永が過ぎるから。如何にエスペラント運動が遅々として居ると言つても、これ程の歲月を要する事はあるまい。よしんば要するとしても決して驚いてはならぬ。やらない前から時間に脅威を感じるな、時間を超越せよと云ふのであるやれると信じた一念に Venko の第一歩がある。

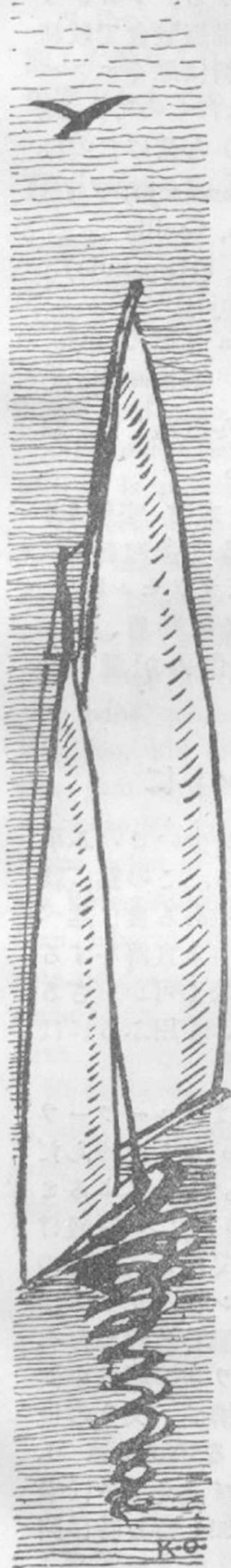
『百の種は失はれ、千の種は失はるゝとも、我が行は精進にして忍びて遂に悔いじ』と云ふザメンホフの訓えは大乘佛教と通じたる或物を持つて居る。

彼が十幾つの時從來の信仰を失つたと云ふ事も特筆すべき事だと思ふ。既成宗教の殻を破つて始めて獨立人として立つた彼は無宗教の宗教の人となつた。小乗佛教を脱して大乘の域には入つたのであつた。彼が一つの既成宗教にこだわつたり其の形式を棄て得なかつたなら、今日エスペラントは存在してゐなかつたらう。

相當永い間エス語に興味を持ち其の運動に参加してゐた人が離れて行くこと云ふ事は非常に淋しい事である。これは主として内的思想に觸るゝ事少きが爲めでは無いかと思はれる。現在、語學的にエス語の講習は相當の成績を擧げてゐるが其に對して、エスペラントの内的思想の研究方面が割合に發展してゐない様に思はれる。エスペランチストは、此の方面にも今後相當の眞面目な研究を重ねて行く可きではないだらうか。

時間と空間を超越して、未來に對する淡い希望を捨てゝ、現在の一念に執念深く、一步一步を履みかためて行かればならぬ。そして將來の Venko を單なる時間的將來に見ず、現在の一步の中に觀て常に凱歌をあげつゝ進むべきでは無いかと思ふ。私はエスペラントのエの字も知らぬ世界に向つて、呼び掛けた勤苦十年のザメンホフを思ふ時、言ひ様のない尊敬と心のなごきを感じる、そして同時に自分の不眞面目さを恥かしく思ひます。

さあ諸君と共に力を協せて大海の底を窮めませう、途中でヘタバラない様に聲を掛け合つて。



海外報道

第二十二回萬國エスペラント大會は Oxford で

10月號本欄に第二十二回は Köln を報じたが其後の消息によれば、Köln と同時に BEA (英國エスペラント協會) も Oxford へ招待したが Köln が大乗氣なので BEA は招待を引込めた。しかるに GEA (獨逸エスペラント協會) の方では Oxford を適當と認めたので來年は愈々有名な大學町 Oxford で開かれる次第になつたのである。

英國に於ては 1907 年 Cambridge で第三回が開かれ 1926 年には Edinburgh で第十八回が開かれたので今度が三回目である。由來 Oxford と Cambridge は兩大學の對抗ボートレースで有名であるが今回は萬國エスペラント大會でその盛會を競ふ事であらう。(Cambridge では 1,317 名の参加者があつた)。

第二十二回の大體決定した事は

1. 期日は 8 月 2 日より 9 日まで
2. 大會々頭 B. E. Long 氏、副會頭 W. E. Collinson 教授、地方大會委員長 Robert Robertson 氏、委員中には ICK の委員長 J. Merchant 氏が擧げられてゐる。
3. 通信宛名: Sekretario, 22-a Kongreso de Esperanto, 142, High Holborn, London, W. C. 1.
4. 會費: 20 志、1930 年 7 月 1 日までに送る事。それ以後は 30 志。
5. 参加者へは機關紙として 1 月から 8 月まで "International Language" が送られる。

各國エスペラント大會

★第 14 回伊太利エスペラント大會 7 月 28 日より 30 日まで Udine にて開催さる。28 日午前は開會式、午後 1 時から第 1 回協議會、夕は演劇があり、29 日は遠足と第 2 協議會に過し、30 日には Cividale へ自動車で遠足した。

★第 16 回ブルガリヤ・エスペラント大會 7 月 28 日より 30 日までダニエーブ河畔 Vidin にて開かる。参加者 300 名を超え、盛會であつた。第 17 回は Sofia 或は Šumen である。

★第 1 回ピヤリストク州エスペラント大會 10 月 26, 27 兩日 Bialystok にて開かる。賓客として Zamenhof 一家が招待された。

★第 8 回西班牙エスペラント大會 9 月 14 日より 18 日まで Oviedo にて開かる。プログラム中重要なものは國際兒童作品展覽會で教師間に多大の興味を與へた。材料は悉くエスペランチストによつて集められたものである。文部省よりの賞 (賞金及書籍) を受けたのは

1. Lla Lernejo, el Oslo (Norvezujo)
2. Nacia Lernejo, el Gilena, Sevilla (Hispanujo)
3. Lernejo el Holbäk (Danujo)
4. Nacia Lernejo "Altamira", el Oviedo (Hispanujo)

の四校で尙他の學校にも賞狀を授與した。24 ヶ國の學校から出品せられた。

★第 19 回ドイツエスペラント大會 來年 4 月下旬に Dresden にて開催さる。参加者既に 100 名に近く、準備委員會にはサクセン聯盟、サクセン・エスペランチスト教員聯盟、ドレスデン婦人エスペラント會の代表が選ばれた。

遺産をエスペラントに

エスペランチストには金持が少いといふ事は誰でも云ふ事で又事實である。この點に就いては Zamenhof も常に機會のある度に述べてゐる事で金が無くては効果ある宣傳をする事は難しい。勿論勞力も必要缺く可からざるものではあるが、勞力を能率よく用ふるにはやはり金が必要だらう。

"La Suda Kruco" によればニュージールランドの Christchurch の Ensom 夫人が死んだ時に遺言が發表せられた。これによる Ensom 夫人はエスペラントのクラスを設ける爲に 500 磅を宛てゝあるのである。遺言の大體は『私は國際語エスペラントのクラスを設ける爲に Christchurch の勞働者教育協會へ 500 磅を相續せしめます。クラスの繼續中は世話人を雇ひ相當の給料を支拂ひ、又その世話人にはその方面の能力のある Norman M. Ball 氏がなされる事を願ひます。クラスは學歴に拘らず最も多くの人の参加し得る時に開かれるべきです。』

商業博覽會でエスペラント展

チエコスロバキア Brno 市にて開かれた現代商業博覽會では商業、廣告、見本市、遊覽に於けるエスペラントの利用を示す爲にエスペラント展を催した。この催しは多くの興味を引き數萬の入場者あり、新聞紙上でも讃辭を受けた。

又 Brno の警官中10人は ESPERANTO と記した徽章を付け外人にエスペラントで種々の案内をしてゐる。

Universala Komerca Trafikservo

最近 Wien に Esp. で生活費を得る爲の servo を目的とした協會が設立せられた。その趣意書を次に掲げる。

Tre estimata sinjoro!

Kara samideano!

Ni fondis asocion kun la celo servi kaj utili al la praktika vivbezono per Esp.

Vi certe same opinias, ke la praktika uzado de nia helplingvo estas gravega, tial necesas sisteme kolekti la spertojn kaj speciale la pruvojn pri aplikado de Esp.

Ni estas konvinkataj, ke oni tiamaniere plej bone subtenos la propagandon por la Esp-ideo, kiu teorie estas, oni rajtas esperition, jam survoje al venko.

Supoze ke vi konsentas mian opinion, ni havas peton al vi: Akceptu la inviton, esti nia korespondanto.—Per tio vi afable akcelus nian laboron morale, kroma “respondeco” tute ne devigus vin, kotizo ne estas por niaj eksterlandaj amikoj, same ne speciala labordevo, vi mem decidis pri ebla kunlaboro.

Ni esperas ricevi de vi agrablan sciigon, ke vi bone komprenis la valoron de nia intenco, same de nia invito por la progresigo de la Esp-Movado kaj salutas vin,

samideane kun respekto

Universala

Komerca Trafikservo,

Wien, I., Herrengasse 2, Aŭstrujo.

Genève と Budapest の 二大會に出席して

7月25日から8月4日まで Genève に於て萬國教育大會が開かれたが、參加者 1,500 名

で殆んど大部分の部會では翻譯法が用ひられたが三部會にはエスペラントが用ひられた。その大會と Budapest の萬國エスペラント大會とに出席した英國の F-ino Leah Manning は感想を “Schoolmaster” 上に發表したがその一部を茲に掲げる。

『エスペラント大會に對して最良の背景となるものはすべての言葉の話される國際會議であります。それで私が第二十一回萬國エスペラント大會に出席した時には、丁度幸ひに Genève から旅行しました、即ちバベルの塔の物語の逆の經驗を得ました。Budapest への訪問者はすべて最初の夕を歐羅巴の首都中最も浪漫的に美しい都で、カフェからカフェにハンガリー・ジプシイ樂隊の憂鬱なメロデーを聴きながら、ダニユーブ河畔の大通りを絶えず動く千變萬化の色彩を眺めながら過す事と想像しましたので、私もその晩を此處に過しました。そして此處で私は暇を告げて來た國際大會と、新らしく到着した大會との最初の又最も著しい比較を擱む事が出来ました。社會的見地よりは最良の意志を持ちながら Genève は驚く程國民的に終りました。私達は友達を作り度いこいふ氣が起つても、友達を作る事は出来ませんでした。併し Budapest では言葉の障壁は倒れました。そして到る處、カフェで、路で共通語を思想と感情の表現の區々な心の間の橋として用ひてゐる異國民の混じた群が見受けられました。

私はプログラムの秩序正しく移つて行くのに非常に印象付けられました。一部は聴き一部は inteligenta に見せかけやうと努め、残りは無關心に退屈してあたりを見廻してゐるやうな長い翻譯は此處にはなくて忌憚ない意見の交換があり澤山の問題が討論されました。その上に大會は大國民の言葉を話す人等の意見によつて壓せられる事即ち大抵の國際會議での明らかな危險がありませんでした。』

〔訂正〕

8月號掲載の Kvarjara Korespondado kun 14 Japanoj につき筆者からの注意がありましたから此處に訂正いたします。

245頁右上から2行目からは Ĉi tiu mia ekkono ne estas la rezulto de instruo el iu lernolibro, sed la vivplena rezulto de persona eltrovo, do travivaĵo! ”とあるべきでイタリツクの部分が缺けてゐます。

内地報 道

ラムステッド博士の 御歸國送別會

駐日芬蘭公使ラムステッド博士は、その在任九ヶ年の間吾が 에스ペラント界に多大の貢獻を残されて此度歸國なされることになつたのでその送別會が折から萬國工業大會に提出の「工業大會と 에스ペラント」の論文説明の爲遙々上京された吾等の大先輩高橋邦太郎氏も在京を幸ひ、氏の歡迎慰勞を兼ねて賑はしく東京 에스ペラント俱樂部主催の下に 11月5日寶亭に於て開かれた。集る者約50名。一同

大會に學生代表として出席された城戸崎益敏氏の話があつた。最後に松本氏フィンランド國歌のエス譯を朗讀、綠氣霏々の裡に散會した。

尙ラムステッド博士は 11月15日午後9時20分東京驛發敦賀行國際列車にて歸國の途に就かれた。學會より綠星旗を贈して十數名が見送りに行つた。見送人には各國使節多くなかなか盛大であつたが博士にとつてはそれらの人々より我々同志の見送りを心から感謝されてゐた様であつた。



Kunveno de Fervojista Esp-Grupo en Sapporo.

札幌 에스ペラント會。前列左より二人目より、鶴近、河野、田上の諸氏

食卓を共にし deserto に於て中村精男博士送別と歡迎の辭を述べらる。後別室にて二氏を圍みて茶菓に移る。司會は粟飯原晋氏。先づラムステッド博士の挨拶あり、次に高橋氏起ちて萬國工業大會への氏の論文説明の顛末を話し後大會で話された内容をエス語にて語る。氏の熱辯は誠に壯者を凌ぐ概あり一面愉快に氏の演説をきき、その 에스ペラントに對する御盡力を感謝した。次で小坂狷二氏ラムステッド博士の思ひ出を語られ、その後最近支那杭州にて開かれた中華民國基督教青年會

萬國工業會議

學會理事美野田氏の instigo によつて相當の宣傳を行ふことが出來た。

先づ十月二十九日九時半東京市公會堂に於て總裁秩父宮台覽の下に發會式が開かれたので丁度印刷の出來たエス英兩文の宣傳ビラ『民族間の正義と國際語』を若手の三勇士伊藤、露木、小野田三氏が雨中をものともせず出入の會員に配布した。

三十日午後第五部會(鐵道及運輸)に於て小

坂氏の『日本國有鐵道新製客車に就て』の講演、鋼製車臺枠及車體の設計々算に就て述べ、最後に此の如き全く新しい仕事には各國同職の設計者の協力が必要で、それに就ても最も必要なことは國際語エスペラントであるとの結論を下した。同氏の論文はエスペラントで記録に印刷されることになつてゐる。會議席上ではまさかエスペラントそのものに言及は豫期されてゐなかつたのだが、終りに臨んで On a new field like steel car design collaboration of person of the same profession from different nations is demanded... と云ひ出すや、日本の會員連中はソラ出たさばかりにグスグス笑ひ出した。外國會員は I hope, for

つてゐたのは遺憾千萬であつた。先づ美野田氏が三分程國際會議に於ける國際語エスペラントの必要を論じ、最後にエスペラントで一言せられてその實地を示され、次で高橋氏が約二分程エスペラント採用を考慮せられむことを高唱せられた。同志は小坂氏出席の他學會理事中村博士及城戸崎氏が傍聴に來られた。

更に示威のため美野田高橋其他諸氏署名で將來萬國工業會議に公用語としてエスペラントを採用する件に關する提案書を Rezolucia Komitato に提出した。第二回萬國工業會議が開かれるか否かは遂に未定で終つたようであるが、若し第二回が開かれる（多分米國シ



Ekspozicio okaze de la rememoriga festo de Meiji Jakusen.

明治藥專記念祭に於ける展覽會。中央エスペラント部長倉地氏

this aim—in the collaboration of diverse nationalities would prove to be of great service—an international language comprehensible to every nation—Esperanto. の結論で一寸あつけにとられたようだつた。美野田高橋兩氏も臨席された。

十一月四日午前第一部會に於て美野田琢磨、高橋邦太郎兩氏提出の The World Engineering Congress and Esperanto の講演があつた午後の豫定であつたが生憎後樂園に於ける陸軍の招待があるので、午前の部會に押し込まれたため、時間が不足し、既に正午を過ぎ、外國の會員などは悉く退席してしま

カゴに於て) 様ならば今度は各國のエスペランティストに大に策動、吾人の主張の貫徹に努めねばなるまい。

會議出席の外國會員及びその家族六百名中には勿論エスペランティストは居るまいと豫想してゐた處、十一月八日夕、米國ワシントン農務省 Frederick G. Cottrell 氏夫妻が學會事務所に訪れて來られた。氏は hemiisto で何分會議中は晝夜招待せめて、やつと會議がすんで暇になつたから來たこの事。日光仙臺へ行き次で九州へ旅行し、東京へ歸つて十二月中旬歸國の豫定である由。依て行先各地の會員の adresoj を教へて是非各地で訪問せら

れむことをすゝめた。尤も氏のエスペラントはうまくはないが、同會議に一人の同志があつた事は心強い次第である。なほ同會議出席の有名な工業合理化専門の Lillian M. Gi breth 夫人はニューヨークエスペラント會會員署名の小坂氏宛 saluto を托されて送つて來られた。

第四回 北陸エスペラント大會

—— 11月10日・高岡市にて ——

この日、朝から曇つてゐた空が晝頃から大粒の雨となる。驛頭の Bonvenon Samideanoj! の afiŝo に一同胸をさざろかせつつ、緑星旗に飾られた大會々場たる 水波佛教會館に行く。會するもの三十名。午後1時 Espero 合



Ekspozicio en
Obihiro, Hokkaido.

北海道帯廣町に於ける
展覽會 8月11-17日
(左)三田智大氏

唱に會は始り高商大坪氏大會委員會を代表して開會の挨拶をなし高岡高商教授小寺氏を會頭に推す。各地の saluto は、金澤エス會(梶野氏)、金澤醫大(田畑氏)、四高(瓜生氏)、富山藥專(駒見氏)、高岡高商(小杉氏)、高岡(深井氏)であつた。つゞいて各地各會の運動についての報告あり、次に議事に入る。

北陸エス聯盟組織確立の件は深井氏説明し結局委員附託となる。國際賣藥會社富山にあり、越中賣藥の海外進出を企圖して創立せられしもの)に對してエスペラント採用を大會の名によつて建議する件は満場一致で可決。富山エス會に委託さる。尙次回開催地は富山市と決定。ついで四高瀬川教授、來年日本エスペランティスト大會は金澤市に開催せらるるにつき北陸地方全體の Esperantistaro の援助を乞ふ旨の希望があつた。

記念撮影の後に當日の呼物 Oratora Kunveno に移る。舌端火を飛ばす熱辯これだけでも大會の大なる收獲であつた。

Ĵaluzo 清水順吉
La dangero ruiniganta la homaron kaj
eŭgeniko kaj instruado 竹林いさを
Pri la literoj de Japania lingvo

竹林そさを
Signifplena vivado 田畑喜作
La luno kaj Japania kulturo 大野政雄
Uzado de Esperanto 大坪喜作
Kiu estas la plej bona amiko de la viro

小松宣也

午後5時より一流の料亭寶亭にて晚餐會を開く。胸打ちひらいての座談。池田君の獨唱、竹林君の校歌奈良君の電燈照明のお話は異彩を放つてゐた。終にベナブルス氏立つて挨拶

ありそれより講演會場に向ふ。

高岡新聞後援で午後7時より平米町小學校講堂にて、高商マンドリンクラブも特に賛助出演して下さつたので樂も一入加はる。

タギーデヨ合唱 聯盟員一同
エスペラントのお話 奈良榮二
Vidante malantaŭen kaj antaŭen

ヴェナブルス(通譯池田)
エスペラントと日本 瀬川重禮
Internaciaj kongresoj kaj Esperanto

ヴェナブルス夫人(通譯大坪)
教育に於けるエスペラントの有用性

大坪喜作
國際語の形成と發展の基礎 深井正淑
エスペラントの實用 小寺廉吉

雨の爲聴衆は割合に少なかつたが色々の面白い話でエスペラントについての深い感銘を

受けて散會。かくて吾々の大會は終つた。大會によつて得たるものを、新しき活動の糧として、新しい道に前進しよう。

東京

★學會十一月會話會 11月16日夕例の通り丸之内鐵道クラブで會話會を開く。話手は熱心な同志陸軍航空少佐加藤正美氏で同氏は我國陸軍の飛行界の中堅たる人であるから色々の方面から興味深いお話をされた。殊に同氏は我エス界唯一の熱心な同志であるから話の中へは常にエス語の術語を挿入されて話されたのでその點からみても大變有益な興味の多いものであつた。その後いろいろの質問續出愉快な一晚を過すことができた。この日福岡より東大に講義の爲上京中の大島廣博士も見えた。

ダアトモスフエーロに充たされた。

最後に一同の紀念撮影を行つて閉會とした。(明治藥專清水記)

★明治藥專エスペラント展 十月五六日に行はれた開校記念日に際して第二回のエスペラント展を開催しました。

心地よい秋晴れでしたので多數の參觀者に恵まれました。その中から多數の新しい samideanoj を得ました。室内に apoteko espero を設けてやがて来るべき新しい藥局を示して見ました。

學會の御盡力によつて簡單なる即賣場を設けたことは新な samideanoj に如何に便利であつたか分かりません。併せて遠路わざわざ御出で下された。samideanoj 諸兄に御禮申上ま



Ekskurso de Hakodate Esp-Grupo al Parko Onuma.

大沼公園へ遠足した函館エス會の一行

★東京學生エスペランチスト聯盟秋季例會★

秋風颯爽と吹く霜月、今又日々に旺盛となる我が東京學生エスペラント會は去る十六日に新宿白十字堂に於て例會を明治藥專當番の下に開いた。

各人第二學期の試験を眼前にひかえるに拘らず、集ふ fervoraj Esp-istoj 二十七名(八校)であつた。

二時半より高橋氏の開會の辭に始まり、特に御出を願つた小坂其の外の諸氏の御挨拶と面白き御話及び各校レプレゼンタントのサークルが有つてかれこれ四時も過ぎんとするころマンデヨに移る、二三の御話有り、前例を破つたレストラチーオの會場も斯くしてベル

す。

もう一つの報告として去る十一月二日に行はれた校内運動會の時の優勝旗に“Triumfonto”, “Farmacia Kolegio Meiji”の文字を見ることが出来ました。

吾が校内にエスペラントの vastigi した程度を御察し下さい。

最後に今月末までには當學校の小冊紙を発行します御希望の方は左記へ御申込み下さい。(市外笹塚明治藥學專門學校内エスペラント部)

★アルヂエ・クンシード(銀座明治製菓) 此の會は今更贅言を要すまでもなく、會のある前日の新聞紙上にその一片をさめる程

oficiala kunsido になり毎々新しい顔が見えるが此の頃は常連が減少して新客を失望させることもしばしばである。都下の方々の多数出席を待つ。十二月總會は十四日第二土曜日午後七時より學會ザメンホフ祭と合併、鐵道俱樂部にて。例會は七日廿一日廿八日午後二時半より五時まで。

★**ロンド・デ・サモヴァーロ**(神田東洋キネマ前) 個人の書齋に於ける會合と云つた感じを起させます、最近に寄贈雜誌等もめつきりと増へて益々その氣分を高めました、五日のラムとの送別會の後一部は此處へ繰り込んでゆくわいでした、十二月、來年一月は會合中止いたします。尚 Esperantaĵoj を御寄贈下さいました、兒島氏その他の方にお禮申し上げます。

★**智山大學初等科講習**(府下上石神井) 十一月中火曜日と金曜日午後三時より四時半まで學校の幹部の先生方五名ほども參加され二十餘名熱心に勉強して居ます。講師露木氏

★**クララ會** 11月24日午後1時半より例會開かる。會する者10名 Krestomatio の研究に始まり、後出席諸姉のエス語の salutoj や rakontoj を聞き、終りて二三同志の提案になる協議事項に移る。中でもクララ會機關誌發行の件につき方法、内容の點で意見を戦はせながらも満場一致で可決されたのはよろこばしいことである。猶役員の改選、會計報告等あり、時の移るもしらず五時を耳にして散會した。因みに同會誌はその名もクララと命名され新春早々新装をこらして aperi する筈。但し同會々員相互間に於ける回覧のみ。次回は12月15日(第3日曜日)午後1時半よりケーシー嬢其の他新入同志の歓迎を兼ね佐々城氏宅で開かる豫定。

横濱

★**横濱高等工業學校**では鈴木氏の努力により十月七日より十日間同校教室に於て初等講習開始、講習生約五十名、近來になき活氣ある會にて、又その收獲率も50%以上上つた。開始當夜は學會よりは小坂氏、清水氏及保坂氏の臨場を得て大いに同校學生間にエス語氣分を味はさして頂いた。講師は支部の福喜多脩氏。★常設座談會を横濱市中區伊勢佐木町有隣堂食堂にて毎木曜日午後六時半から約一時間御茶を飲み乍ら、會話の練習、お互の親睦等を目的の爲に開くこととしました御來濱の同志は是非御立寄り下さい、御歓迎申し上げます。(福喜多氏報)

金澤

★英國より歸朝の瀬川氏を迎えて第一學期に初等講習を開き七十名の希望者を得たが、第二學期に入つては會員

十名内外で堅實に初等講習の道にいそしんでゐる。毎日一時間以上、會員は回を重ねるもへらない。

十月二十六・七・八日の三日本校紀念祭を機とし、展覽會を開催、市民は雜踏した。地方人心にうえられたたねは何時かは芽ぐむであらう。會員自らも非常に勇氣づけられた。

高岡

★大會翌日、十一日夜より二番町幼稚園で初等講習會を開いて居る。參加者、男八名、婦人六名、講師大坪深井兩氏、用書學會短期講習用書。

石川

昭和四年七月二十三日十四時より大聖寺中學校教室に於て、第一回宣傳講演會をなす。講師は、金澤醫大池田善政氏、金澤エス會榊野助治郎氏。例年になく酷暑と夏期休暇初のこゝろで會するもの僅かに十五名、話す者、聞く者共に熱あるもののみで感激の中に過すことが出来て當地エス運動の第一回は成功と云はればならぬ。本會開催にあたり、中學田中先生の御後援には深く感謝の意を表す。

(石川縣大聖寺町榊野甚一氏報告)

仙臺

★東北帝大エス會では一週一回化學工學科學生5名が桑原氏を中心に“Danco de Skeletoj”の輪讀 kartoludo 等をやりながら會話の練習をやつてゐる。★二高エス會では岩名氏の盡力によつて、11月5-6日に亘つて校內エスベラント展覽會を開いて成功を収めた。引き續いて初等講習會を催す様計畫中。★11月10日夜政岡家で長らく催されなかつた仙臺エスベラント親睦會を催した。折からの雨を衝いて集る者16人。豫想外の盛會。桑原氏の開會の辭、菊澤氏のエス語演説、帝大、二高エス會の報告、自己紹介等。東北帝大田中館先生も來られ、種々の國際會議に出席された面白い経験を語られ國際語の必要を幾度となく説かれた。こうして第十二回日本エスベラント大會を催してから後さびれた感じのあつた仙臺のエスベラント運動も再び活氣を呈しやうとしてゐる、會名を仙臺エスベラントクルーボとし事務所を菊澤氏の處におく。

三重

★太平洋會議の歸途アレキサンダー嬢は十一月九日津市中河原町の鳥居篤治郎方を訪問され翌日十一月十日午後一時より鳥居氏宅に於て同志の座談會開催す主なる出席者は三重高等農林學校野智里先生、林好美氏神田治氏、喜田川基氏、中西良孝氏、鳥居篤次郎氏、工藤鐵男氏、主賓アレキサンダー嬢、同嬢よりハバイ運動と其精神

に就てお話あり一同午後七時過迄歓談次で同夜八時六分津驛發にて東京に出發せられるアレキサンダー嬢を津驛まで送り一同散會す。

高知

★龜岡エスペラント普及會伊藤榮藏氏は10月3日より高知市へ出張。先づ商業學校にて持參のエス展覽會講演會を開き、25名に10日間初等、引續き5日間中等をなす。後城東中學、工業學校、海南中學に同様の企をなす。高知高校では之を機會としてエス會復活し19日茶話會を開きて色々の事を協議し27日には高知全體の同志會合を開く。遠く赤岡町より出席する熱心家もあり、城東高等の岡田先生も出席され今後月一回會合を開くことに決定す。

九州

★九月二十六日午後七時半より小倉市中島古川氏宅にてささやかな追悼會(故村上茂義君を偲びて)を催す。門司より片村氏、戸畑より中西、林の兩氏出席(小倉、溝口、藥師寺、古川、福澤、田中の諸氏)。林道治氏の(茂義君に關する)意義深い追憶談の後諸氏の思ひ出話に時の經つのを覺えず。かくて十一時散會した。尙同夜北九州のみのAdresaroの發行の件に付協議す。

福岡

★二年有半獨逸留學中の九大醫學部小野興作山川強四郎兩先生の歸朝歡迎會を十一月七日タカフエーブラジルで開催、出席者大島、伊藤、江崎、永松諸先輩始め十五名、歐洲のエス界の談話あり、盛會に夜をすごす。福岡エスペラント俱樂部の集會日毎週水曜日夜目下Zamenhof譯Batalo de Vivo講習中。來訪者歡迎。(江口氏報)

函館

★10月20日大沼公園秋季遠足を催し出席者、小森會長、亘理井上氏の御家族揃ひ、外吉田、鎌田、佐野、森、松川、加藤、小田島氏の面々、ベルダ、スタンダロイを賑やかざして驛前に集合、八時發、満員電車に『生きた宣傳』と盛んにバビリーす。乗客呆然として満座の視線我等に注ぐ鎌田、吉田、井上、亘理氏益々得意。秋晴の大沼湖上に船を浮べて一行十七名、ターゴマンデヨを共にし食後、四邊に轉在せる260幾かの島嶼の紅葉せるさながら名畫の如き風光を眺めつゝ美酒ならで粗茶をくんで宴に移れば餘興續出し笑聲堪す其の機、鎌田氏船頭さんの笑顔詰共、カメラハパツチリ。船舷船首の綠星旗、微風に翻り最後にユヌーロイのタギーデヨ、エスパーロの合唱にて閉會再び上陸す、三々五々陸路島廻り。公園散策。山へピンベ

ーロ採りボート遊び等々に時を費し三時半見晴館に集合し、本會と縁故のある各地の同志に一同署名してエハガキを發送す。四時半上り列車に特に小森會長のコンサート的好意により二等車に便乗、一路函館へ。本會主催の遠足十數回中、今回程、愉快的思ひ出は嘗つて持たなかつた。以上。(小田島氏報)

札幌

★札幌鐵道局の部内では去る10月11日から23日まで札幌市内鐵道集會所に於て、札幌エスペラント會の田上、花田、河野の諸氏を招聘して初等エス語講習會を開きました。講習を受けた人々は部内の各方面に亘り其の外部外の人として札幌放送局の方も見え總數凡そ30名熱心に研究しました。講習會が終つてから「札幌エスペラント會」設立の相談會を開き満場一致で賛成し、會長に札幌鐵道病院外科醫長の平野子平氏を推舉して今後益々發展を期し毎週木曜日夕刻から鐵道集會所で研究會を開くことに致しました。(鶴近氏報)

★内地報導係より★

來年も内地報導を續けます。報導は相互の手數を省く爲極く重要な記事と思はるる他はなるべく簡明に葉書又は400字詰の原稿用紙2枚以内にお願ひします。尙地方エス會の名簿がなく聯絡上不便をしてゐますが新年號より名簿をのせますから、既存のエス會は一應、又エス會創立の節は會名と幹事、場所をお知らせ下さい。締切は20日といたします。表に必ず「内報係」と書いて下さい。

★土岐さん最近の功獻二つ。「外遊心境」「文藝の話」でおなじみの土岐善麿氏は最近又「柚子の種」と云ふ氣持のいいエッセイを大阪屋號書店から發行された。その中に「國際語の誕生」と云ふ一章を設けザ博士の略傳を氏獨特なキビキビした文で綴りなした。又氏の提案により先頃開催された工業會議を機縁に、「日本式ローマ字」の入門書を小冊子の型でエス譯してロ・エス兩界の爲に盡した。

★新聞雑誌とエス語★

★10月1日『函館新聞、函館毎日、函館日々』青森の佐藤健吉氏の送別兼エス雄辯會の記事。

10月22日「函館新聞函館毎日函館日々」函館エス語會秋季遠足の記事

★ ★ ★ ★

エスペラント初等講義

〔第十二講〕

LA STACIDOMO 〔停車場〕

vagon'aro 列車

lokomotivo 機關車

relo レール

kupeo 座席 reto 網

kajo プラットホーム

staci'estro 驛長

konduktoro 車掌

valizo 手提鞆

fajfi 汽笛をならす

bileto 切符

bilet'vend'ejo 切符賣場

for'vojaĝanto 旅立つ人

pasagero 乗客

giĉeto 切符賣窓

hor'aro 時間表

prez'aro 定價表

eksped'ejo de pakajoj 荷物
發送所

port'isto 赤帽、荷物運搬人

registri チエツキする

kofro トラント

man'pak'ajo 手荷物

~et'ejo 手荷物預所

ricev'atesto 受取證

atend'ejo 待合室

Interne de la granda halo, en kiun mi eniras, staras aŭ interpremas amaso da homoj. Senĉese ili venas kaj foriras. Inter ili min miksante, mi serĉatingas la biletvendejon.

私が入つて行く大きな構内では、大勢の人達が立つて居たり、又押合つたりしております。ヒツキリなしに人々が行つたり來たりします。そう云ふ人達の中に交つて、私は切符賣場を探しあてて行着きます。

【説明】 *interne de* ……の内部に、*interne de* の代りに *en* を用ふる事は出来ますが（例：*interne de la ĉambro=en la ĉambro*）而し *en* は必ずしも常に *interne de* ではありません。*en* は抽象的、具體的、兩方に用ひられますが、*interne de* は唯具體的にのみ用ひられると解釋すれば、差當り大した誤はしません。*halo* 廣間、こゝで云ふ *halo* は勿論停車場入口の廣場を云ふのです。*inter'premi* 押し合ふ。*amaso da homo* 人の群、群衆。*sen'ĉes'e* 絶えず。*ili* は *homoj venas kaj for'iras* 來たり、去つたりする、往來する。これと同じ様な意味で *iras kaj re'iras* などによく用ひられる。*miksi* 交ぜる、「彼等(人々)の間に私を交へつゝ」とは、自分も群集の中で押しつゝ、もまれつゝ乍らと云ふ意味。*bilet'vend'ejo* 切符賣場。

Jen multaj giĉetoj, malantaŭ kiuj kasistoj vendas la biletojn. Ĉar multaj personoj staras antaŭ mi, mi devas atendi. Pro enuo mi studas la tie elmetitajn horarojn, prezarojn, anoncojn aŭ grandlitere presitajn avertojn (ekz.: “Gardu vin kontraŭ ŝtelistoj!”) Post kelkaj minutoj fine estas mia vico. Mi postulas: “Donu al mi

するゝそこに澤山の切符賣窓があつて、その後では出納係が切符を賣つてゐます。私の前には多勢の人が立つてゐるので、私は待たねばなりません。私は退屈なので其處に張出された。時間表、運賃表、公告や大きな文字で印刷された警告(例へば、‘懷中物御用心!’)等を念入りに見ます數分たつと遂に私の番がやつて來ます。私は「大阪行三等の往復切

bileton triaklasan al Ōsaka, tien kaj reen!" Ricevinte kaj paginte ĝin, mi rapidas al la ekspedejo de pakajaro.

【説明】 この場合の *jen* は、切符賣場を見つけた瞬間、「それそこに……がある」と云ふ氣持。*giĉeto* この字は一字で *giĉ+et+o* ではない。*mal'antaŭ* 後に。*antaŭ* は時間、場所兩方に用ひられるが *mal'antaŭ* は場所のみに限られる。例：— i) *antaŭ tri monatoj* (時)。ii) *antaŭ la domo* (場所)； i) *malantaŭ (post) la domo* (場所)。ii) *post tri monatoj* (時)。*persono* 人物。*pro enuo* 退屈故に。*studi* は研究するであるが、こゝでは退屈しのぎに時間表などを調べる意味。*el'met'ita* 曝し出された、張出された。*grand'liter'e* 大きな文字で。*ekz=ekzemple* 例へば *Gardu vin kontraŭ ŝtelistoj* (盗人に對して汝を護れ) 懷中物御用心。*fin'e* 遂に。*postuli* 要求する。*bileto tri'a'klasa* 三等切符。*tien kaj re'e'n* 其處へ行つて歸る、意味から往復。*pagi* には通常 *por* 又は *pro* が前置詞として伴ふのであるが、此場合は *ĝin* が *ricevi* にもかゝる關係上前置詞を省略した。*pak'aj'aro* 荷の集積。

Portisto jam konforme al miaj ordonoj registrigis miajn kofrojn kaj vojaĝsakon escepte de la manpakajo. Li transdonas al mi la ricevateston; mi iras al kajo. Irinte tra la barilo, kie oficisto tonde signas la biletojn, kaj trans ponton super la reloj, mi fine atingas la kajon. Serĉante laŭlonge de la vagonaro konvenan kupeon, mi trovas iun ankoraŭ malplenan. Tien mi eniras, metas miajn valizon kaj pakajon sur la reton kaj sub la seĝon tiamaniere, ke ili neniun genos.

Amaso da homoj staras ĉirkaŭ la pasaĝeroj apud la vagonaro adiaŭante la forvojaĝantoj. Nun la staciestro faras signon de la forveturo; la lokomotivo fajfas. Kaj kun granda bruo la vagonaro ekmoviĝas akurate laŭ la horaro.

【説明】 *konform'e al* ……に應じて。*ordono* 命令。*registr'igi* 登録させる、チエツキさせる。*vojaĝ'sako* 旅行用の信支袋。*escepte de* ……を除いて。*trans'doni* 手渡す。*kajo* プラットホーム。*tond'e signi* 鉄を入れてしるしをする。*trans la ponton* 橋を渡つて彼方へ。*super la reloj* レールの上に(懸つてゐる)。*laŭ'longe de* ……に沿つて。*konvena kupeo* 適當な座席。*iun ankoraŭ mal'plenan*=*iun kupeon*, *kiu estas ankoraŭ malplena*. *valizo* 手提鞆。*reto* 網。*tia'manier'e, ke* ……である様に。*ili*=*valizo kaj pakajo*. *ĝeni* 迷惑さす。

符を下さい」と申出ます。それを受取り支拂ひをすませて私は荷物發送所へいそぎます。

赤帽はもう私の命令通りに、手荷物を除いてトランクと旅行袋とを登録(チエツキ)して呉れました。赤帽は私に受取證を手渡します。そこで私はプラットホームへ参ります。私は驛員が鉄を入れてくれる改札口を通つて、線路上の架橋を渡り、さうさうプラットホームへ着きます。列車傳ひに適當な座席を探し乍ら私は未だ空いてゐるのを見つけます。私は其處へ入り手カバンと包みとを人の迷惑にならぬ様に網の上と腰掛の下におきます。

多勢の人々が旅立つてゆく人達を見送つて列車の傍に乘客を取巻いて立つてゐます。今驛長が發車の合圖をします、するさ機關車が汽笛をならします。そして大きな音を立てて列車は時間表通りに動き出します。

エスペラント中等講義

【La Patro】

(3)

Anton Ĉehov

Mi rabis vin, Borenka! —
murmuretis la maljunulo. —
Malfeliĉaj, malfeliĉaj infanoj!
Granda estas la ĉagreno havi
tian patron! ... Boris, mia anĝelo,
mi ne povas mensogi, kiam mi
vidas vian vizaĝon. Pardonu...
Kia estas mia senhonteco! Mia
Dio! Mi ĵus rabis vin, hontigas
vin per mia drinkula vizaĝo,
morgaŭ mi hontigos same viajn
fratojn! ...

【譯】「ポーレンカ、俺はお前から搾り取ったんだ。」と老耄はつぶやいた。「可愛相な、可愛相な子供達。こんな父親を持つなんて、大した氣苦勞だ。優しい俺のポーレンカ、俺はお前の顔を見ると、嘘が云へなくなるんだ。許してお呉れ。俺は何んて恥知らずなんだらう。あゝ、今しがたも俺はお前から搾り取つて、酔どれた面をしてお前を辱かしめてゐる。明日には又こんな具合にお前の兄弟達を辱しめよう」と云ふんだ。」

【註】 rabi 奪ふ、強奪する。譯文には、「搾る」としたが、「搾取」には ekspluat-i がある。迫剝等が身のものを(何から何まで)剥いて行く」と云ふ意味には ĉirkaŭ-rabi, pri-rabi 等が使はれる。murmuri 呟く、Leono murmuregis は「獅子が大きく呟いた」のではなく「咆哮した」のである。mal'feliĉaj infanoj と複數にしたのは Borenka の事許りでなく自分の他の子供達の事も指して言つてゐるのである。anĝelo 天使、我が子への愛稱。sen'hont'eco 恥知らずさ加減。mia Dio! 嗚呼。hont'igi 辱しめる。drink'ula 酔どれの。drinkulo は drinkemulo の省略形と解する方がよからう。sam'e お前(ポーレンカ)を辱しめたと同じ様に。

Kaj se vi vidus min hieraŭ!
Mi ĝin ne kaŝos, Borenka!
Hieraŭ venis al mia edzino

najbaroj, ĉiaspecaj mallaboremulinaj, mi drinkis kun ili kaj komencis kalumnii vin, miajn, infanojn. Mi insultis vin, plendis, ke vi min forlasis. Mi volis kortuŝigi la ebriajn virinojn kaj ludis rolon de l' malfeliĉa patro. Ĉiam mi faras tiamaniere: kiam mi volas kaŝi miajn malvirtojn, mi kulpigas pri ĉio miajn senkulpajn infanojn. Mi ne povas mensogi al vi, Borenka, kaj kaŝi le veron. Mi iris al vi fanfaronante, sed kiam mi vidis vian delikatecon kaj kompatemon, la lango gluiĝis al la palato kaj en mia konscienco la supro venis suben.

【譯】そして、もしお前が昨日俺を見かけでもしたら! ポーレンカ、俺は隠さずに云つて了はう。昨日近所にあるどれもこれも無頼漢(ワズ)の女共が、俺の因業婆さんの處へやつて來たんだ。俺は奴等と一緒に飲んで、お前達、俺の子供のこさをさんざん悪く言ひ出したんだ。俺はお前達を罵つて、お前達が俺を棄てて了つたと滾したんだ。俺は呑んだくれの婆共から可哀相に思はれようとして、さも不幸な父親の様に見せかけたんだ。これはいつも俺の手だ。俺が自分の不しだらを隠さうとする時には、罪のない子供達に何もかもなすりつけてしまふんだ。俺はお前には嘘が云へないから、本當の事を打明けて了ふんだよ、ポーレンカ。俺は大威張りでお前の許へやつて來たが、さてお前の優しさやおもひやりに遭ふと、舌が喉にこびりついてしまつた、そして俺の良心の中は顛倒してしまつたんだよ。

【註】 se vidus... は假定法で、事實の反對を云ふ。昨日お前は俺を見なかつたが、(事實)もし見たとしたら(假定)何事が起つたか

も知れない。ĝin は文法上前のどの字を指すのでもなく、唯 tio, kio okazis hieraŭ と云ふ意味で使はれてゐる。najbaro 隣人。ĉia-speca あらゆる種類の。mal'labor'em'ul'ino 無精女、怠け女。kalumnii 誹る。plendi 不平を言ふ。for'lasi 見棄る、置去りにする。kor'tuŝ'igi 感動せしめる。ebria 酩酊した。ludi rolon de ……の役目を果す。こゝで、不幸な父親の役目を果した、と云ふのは一芝居うつて哀れつばい様子をしたこそ。……に見せかけるは ŝanjni が多く用ひられる。tia'maniere そんな風に。mal'virto 不徳、不貞。kulp'igi 罪にする。pri ĉio 何事につけても。sen'kulpa 無罪な、無邪氣な。fanfaron'ante 虚勢を張り乍ら。delikat'eco 優しさ、しこやかさ。kompat'emo 憐み深いこそ。lango 舌。glu'igi 粘着す。palato 口蓋。konscienco 良心。la supro venis suben. 上が下になつた。顛倒した。

—Ĉesu, paĉjo, ni parolu pri aliaj aferoj.

—Dipatrino, kiajn infanojn mi havas! —daŭrigis la patro, ne aŭskultante la filon. —Kian donacon mi ricevis de Dio!... Ne ĉifono, kiel mi, devus havi tiajn infanojn, sed vera homo kun animo kaj koro! Mi tion ne indas. —

La maljunulo demet's sian malgrannan ĉapon kaj kelkfoje faris la signon de l' kruco.

【譯】「お止めなさい、お父さん、何か外の話をしませう。」「聖母よ、私は何と云ふ子供達を持つたものでせう。」と父親は息子の言葉を耳にもかけずに續けた。「何たる寶を私は授つたのでせう。こんな子供達には私の様なやくざ者でなしに、魂や心を持つた本當の人間が父親でなければならなかつたのです。」

私には勿體ないので老人は小さな縁無帽を脱いで幾度も十字を切つた。

【註】ĉesu 止めよ。Di'patr'ino 聖母マリア。kiajn (bonajn) infanojn の意。donaco 贈物。ricevi de Dio 神から授かる。ĉifono 襤褸、こは自分を卑下して言つた言葉。tion ne indas 自分にはそれだけの(こんな立派な子供を持つだけの)値打がない。de'meti 脱ぐ。ĉapo 縁

無帽。fari signo de l' kruco 十字のしるしをする、十字を切つて祈りを捧げる。

—Gloro estu al Vi, Dio!—
ĝemis li, rigardante ĉirkaŭen kaj kvazaŭ serĉante sanktan pentraĵon.—Rimarkindaj, maloftaj infanoj! Tri filojn mi havas kaj ĉiuj estas samaj. Sobraj, seriozaj, agemaj kaj kiel saĝaj! Veturigisto, kiel saĝaj! Gregorio sola havas saĝon por dek. Li scias francan, li scias germanan lingvon kaj parolas... kion valoras viaj advokatoj kompare kun li!... eterne vi dezirus lin aŭskulti... Infanoj miaj, infanoj, mi ne kredas, ke vi estas miaj! Mi ne kredas.

【譯】「神よ、あなたに光榮あれ!」と彼は聖像のある處を探しでもする様に周圍を見廻し乍ら、溜息をついた。「すばらしい、珍らしい子供達です。私には三人の子供達があります。それが皆んな同じ様に、眞面目で、物堅くて、働き者で而も伶俐なのでございます。おい馭者、ほんまに伶俐なんだぜ! グレゴリー一人だつて大丈夫十人分位伶俐なんだ。彼奴は佛蘭西語も出来れば、獨逸語も出来て話せるんだ。お前達の代言人だつて、彼奴と比べては、どれだけの値打があるか知れたものぢやない。——お前さん達はいくら聞いて居たつて飽きるやうなことはないぜ。俺の子供達、俺の子供達、お前達が俺の子供だとは信じられない。俺には信じられない。」

【註】gloro 光榮。Vi を大文字にしたのは神に對する敬稱。ĝemi 嘆く。rigardi ĉirkaŭen ~ ĉirkaŭrigardi. kvazaŭ serĉante 宛も……を探してでもある様に。sankta pentr'aĵo 聖像。rimark'inda 著しき。mal'ofta 稀に見る様な。estas samaj は意味上次の説明文へかゝる。sobra 節制な、約ましい。serioza 眞面目な。ag'ema 活動的な。kiel は感嘆詞。vetur'ig'isto 御者。kion valoras どれだけの價があるか。advokato 辯護士。kompare kun ……に較べて。eterne 永久に。vi dezirus ……したく思ふだらう(もし彼奴のうまい話し振りを聞いたら)。estas miaj ~ estas miaj infanoj.

最新國際語 NOVIAL

(其

四)

小坂 狷 二

造語法：嘗て數學者 Couturat が Ido の發表に當り Esp. の造語法は根本的に誤つてゐて Ido は理論的ださ吹いたのに對して數學者 René de Saussure が逆に整然たる數學的な理論で Esp. の造語法は完全で Ido のそれは根本的な缺陷がある事を美事に立證した（本誌本年の 2, 3, 4, 號の文法講話は此の Saussure の理論の説明）。J 氏はその書中に Saussure のことを引用しながらも、頭のない J 氏のことゝてその理論がのみ込めなかつたこと見え、Nov. は Ido と全く同じ不條理に陥り、造語法の根本が全く非論理的である。それは深く論じなくとも beli『美しき』、belo『美男』と云ふだけでもわかる（尤も Nov. は o=viro の意だから Ido よりもまだしもだが）。嘗て Saussure 氏が Grand = granda, Grando = grandulo と云ふことを理論的に證明した人には 200 フランの賞金をやること公表したが遂に賞金をもらひ得た論理家（或は非論理家？）はあらはれなかつた。

Nov. の接頭接尾字の陣立は大體 Ido と同じで、その数が多い。先づ接頭字は：

Des=mal-; desfasil=malfacila.

Dis=dis-; disdona=disdoni.

Mal=malbon-; malodoro=malbonodorulo.

Mis=mis-, erare. Pseudo=pseudo.

Par=el-; parlerna=ellerni.

Ri=re- (denove). Retro=returnen-.

Mi=duon-; mihore=duonhoro.

Bo=bo-. Ex=eks-.

Arki=cef- (但英の arch- の場合に限).

名詞造語用接尾字：-o, -a, -e, -um, -ione, -atione, -itione, -utione 等は前に述べた。

-ure=aĵo. 一般には中性語尾 um が受身分詞語尾 -t と共に用ひられ -aĵo を示す：fabrikatum=fabrikaĵo, kopiatum=kopiaĵo.

【注意】前述の如く -um の複数は -umes でなく -us を用ふ、fabrikatus, kopiatus (fabrikatumes, kopiatumes とせず)。自然さをますため次の如き場合には tum の代りに ure を用ひる：pikte(pentri), piktura(pentraĵo, 英 picture), skulptura(skulptaĵo, 英 sculpture), texe(teksti), texture(tekstaĵo, 英 texture).

-ere, -ero (男), -era (女)=-isto. 但し英語で -er を用ひる場合に限り用ひる（下述 -iste 参照）：bakere(bakisto, 英 baker), rakontere

(rakontisto, 佛英 raconteur), juvelere(juvelisto, 英 jeweler). -ere はなほ動植物にも用ひる：repte(rampi), reptere(rampulo 匍蟲類). rakontere と raptere と同類なのだから話し家の奴 Nov. をやつたら定めし額を叩くこつたらう。

-iste, -isto, -ista=-isto 但し(1)或る doktrino, sistemo の adepto を示すとき：socialiste, metodiste, idealiste; (2)或る職業又は學問に従事する人：dentiste, kantiste (然し printe=presi, printere=presisto, 英 printer).

-iere=portanto：kurasiere(kirasulo), pomi-ere(pomuĵo, pomarbo), sigariere(cigaringo), milioniere(milionulo).

-arie=ito, ato, oto：sendarie(adresito 受信者), pagarie(ricevonto 受金者).

-ilo=-ilo (但し -o は男性の意に非ず)：ludilo, ornilo(ornamaĵo).

-ia (但し -a は女性の意に非ず)=provinco, tero. (1) 國名：Anglia(Angluĵo), Francia(Francuĵo), 但し Australia 等は合成語でないこと E p. と同じ、依て人民名は -ane を附して作る：Australiane(Aŭstraliano), Emperero(imperiestro), empereria(imperio). (2) 學問：filosofe(filozofo), filosofia(filozofio), anatomia, (3) 場所(下記 -torie 参照)：printe(presi), printere(presisto), printeria(presejo); lave(lavi), laveria(lavejo); chapele(ĉapelo) chapelaria(ĉapelfarejo). (4) 樹園：pome(pomo), pomere(pomarbo; pomisto の意に非ず), pomeria(pomarba ĝardeno).

-torie=ejo：dormie(dormi), dormitorie(dormejo); koquatorie(kuirejo).

-aje=-aĵo：lignaje, infanaje, plantaĵe. 但し形容詞出身の場合は -um を用ひる：grasi(grasa), graso(grasulo), graso(grasulino), grasum(graso). なほ前述の -s -um あり：komunika(komuniki), komunikatum(komunikaĵo). 尙 -ure 参照。實地活用に當つては常に丹田に氣を鎮め混同誤用せざるよう御注意。

-ede 佛語の -ée(cuillerée=plenkulero)とスペイン語の -ada(cucharada) とを加へて二で割つて作つた接尾字(?)である由。或ものを満すだけの分量：manuede(plenmana), bokede(plenbuŝo).

-aro (o は男性の意に非ず)=-aro.

-ide=-ido: regide (regido).

-yune=-ido 但し動物に限る: bovyune (bovido), hanyune (kokido). 日本語では『王子』『牛の子』だが、或程同類にしては恐れ多いかな。

動詞用接尾字: -ira 或『者』から動詞を作る: rego=reĝo, rgira=reĝi, regi; interpreto=interpretisto, interpretira=interpreti; koketi=koketa (koketa=koketulino), koketira=koketi.

-isa 英語で -ise 附のものに對し } 用ひ共
-ifika 英語で -ify 附のものに對し }
に -igi の意: realisa=realigi (英 realise), modernisa=modernigi (英 modernise); simplifika (其名詞は simplifikacione)=simpligi (英 simplify, simplification), identifika=identigi (英 identify). 此二接尾字に就て J 氏曰く verboj jam konataj tra la tuta mondo を作り得て便利だが萬一或動詞がごちらの形式であつたか記憶してゐない場合にはごちらを用ひてもよい: simplisa 又は simplifika. 英語でも anglicise に對し frenchify が用ひられるからこの言ひ譯付である。

-ada=adi. -isme=-ismo.

-eska=ek-: ameska=ekami, enamiĝi; ridaska=ekridi; oldeska=ekmaljuniĝi.

形容詞接尾字: -isi 前述, -al 前述, -an 前述, -ari 前述, -atri=-simila, -eca, -os(i) 前述.

-iv=kiu povas, kapablas: atente=atenti, atentiv=atent(em)a (英 attentive); instrukte=instrui, instruktiv=instrua (英 instructive).

-as(i)=-ema: disputasi=disputema. 然しロマン語を知らぬ日本人には -iv と -as の區別はつくまい。

-bli=ebla: lekte=legi, lektebli=legebla; audi=aŭdi, audibli=aŭdebla. 他の接尾字は前行語尾を除いて附するが -bli は除外例で前行原語尾を存置する。

-endi=kiu devas esti -ata.

-indi=-inda: lektenda=legota, lektindi=leginda. (-endi と -indi は實用に當つては聞きわけ難く、まぎらしい)。

一般用接尾字: -ach=-aĉ-

-et=-et- Esp. では葉卷は cigar-eto と區別

するため cigaredo を用ひるが、Nov. では形式が國際的である故を以て sigarete を用ひ、Esp. の cigareto に對しては mikri (=malgranda) sigare を用ひる。

-on=-eg- (形容詞用 -isi 參照)、但しあまり使用せぬがよいと J 氏は云ふ。

數用接尾字: -anti 十位數 (前述)。

-o 數名詞 (男性の意に非ず)。

-esmi 順序形容詞。所有代名詞、順序形容詞はその意味に於て形容詞と何等異なる所はない。Esp. で單に -a を附して作るのは理論的で、Nov. は全く歐洲語文法に捉はれた愚策である。

-ime=ono: duime=duono (mi- 參照)。

-opli=obla: duoplim=duoble.

-opim=po- triopim=triope; pokopim=iom post iom.

副詞用接尾字: -tem (temp から取つたのだそう、何と云ふ arbitreco!): nultem=neniam, omnitem=ĉiam, iritem=iam.

-lok=-loke: nulilok (nullok とせず)=nenie; dislok (なほ hir も用ひる)=tie ĉi; altrilok=aliloke.

-kas (kasu=okazo, kazo より取る)=okaze: tikas=tiuokaze.

-grad=-grade: tigrad=tiugrade.

-man=-maniere: nul(i)man=neniel; nobli-man (noblim と區別がつき兼ねる)=noble; timan=tiele, tiamaniere.

J 氏曰く此等の造語は習慣から nu'item, o'mnilok, a'ltrim の如く自然揚音し勝ちであらうと歐洲人らしい獨りぢめを云つてゐる。

此の如く Nov. は接頭接尾字が豊富だがその使用は實は自由でない。例へば Esp. なら正反對の意味はいつも mal- をつけて造つてよいのであるが Nov. では自然さのために des- は限定されてゐて多くの別な語がある。dexteri, lefti (maldekstra); yuni, oldi (maljuna); alti, basi (malalta); longi, kurti (mallonga); sani, maladi (malsana); proximi, ferni (malproksima) …… 英語 left, old; 佛 bas, court (獨 kurz), malad; 獨 fern …… と合はすためであるが、日本人などは此等多くの語を別々に苦心して覚えねばならぬ。然るに desagreabli (malagrabla), desobedia (malobei),

desfasil (malfacila)……等は規則的に des- を附して造られる。何故? 答へは簡單、歐洲自然語で disagreeable, disobey, defacil……はあるが此等に對する別な語がないからであるに過ぎない。何たる身勝手ぞや。歐洲語にはなかるが、日本語には『厭な、反抗する、困難な』など云ふ語がある、iyani, hankosa, konani などと御採用あつては如何。同様 matra=patra (patrino), fema (virino) 等 Esp. なら造語法によつて規則正しく造り得る處を Nov. は別箇の語を用ひてゐる。此等に『規則』を當てはめて matro, femo を造つたら何を意味するか。『男性の母、男性の女』の意か。Nov. 造語法の不規則非論理呆れ果てたものではないか。

Nov. の前置詞も頗る豊富である。Esp. と同じのは ekster, che (ĉe), trans, inter, sur, super, sub, preter, tra, per, por, pro, kun, pri, ye (je). 目的格がないから移動は異種前置詞で區別する: in li urbe=en la urbo; en li urbe=en la urbon.

其他 an (ĉe, kontraŭ, sur), proxim (proksime de), later (apud), dekster (dekstre de), left (maldekstre de), sis (ĉi-flanke de), nord (norde de), sud (sude de), est (oriente de), devan (antaŭ 場所), koran (en la ĉeesto de), mid (meze de), res (nivele de), hinter (malantaŭ), konter (kontraŭ), oposit (kontraŭ 向ひ合つて), sirk (ĉirkaŭ), paralel (paralele al), along (laŭlonge de), ek (el), a (al), vers (en la direkto al), til (ĝis), ante (antaŭ 時に關して), after (post 時、順序), durant (dum), klok (horo: klok ok=je la oka horo), malgre (malgraŭ), segun (laŭ), sin (sen), except (escepte de), ulter (krom), insted (anstataŭ), relat (rilate al), dank (dank' al). 當然他の語では前置詞句が用ひられる様なこまこました前置詞の多きを見よ。序に bon (por la bono de), fern (malproksime de), am (pro la amo al), jespersen (sencerbe pro), novial (malsage pro)……など採用あつて然るべし。なほ Nov. では形容詞は語尾 i を略してよいのだから例へば proxim, nord, paralel などは實地上形容詞だか前置詞だか混亂するこゝがあらう。又 Nov. は de (genetivo), fro (origino 英 from), da

(agenteco) の區別をしてゐる。これは Ido が de, di, par と區別したため實地上では非常に困つた愚を真似たものである。

Nov. は議論の上だけで自然さを高唱してゐるが結果は不規則除外例を多く造つて南歐語系以外の人々を困らせるに止まり、甚だ不自然の姿を脱してゐない。文字 c を排除したので sede (cedi), sirk (ĉirkaŭ), kura (英 cure) など云ふ語が出来、z を驅逐したため sono (zono), sinke (zinko) が出来た。助辭の sal (英 shall), vud (would), ha (have), fa (佛 faire), fro (from), bli, mus (must) などの kripligitaj formoj に至つては Volapük と何等えらむ所がないと罵倒されても一言もあるまい。

優音の點に至つては全く落第で、bovyune (bovido), hanyune (kokido), lekligrad (iugrade), segun (laŭ), insted (anstataŭ), nulilok (nenie), nultem (neniam), tiklok (tiutempe), ha'ved (havis), ameskad (何ぞイケスカ×發音だが ekamis の意), pokopim (iom post iom) …… など Esp. のふつくらと丸みのある優音に比してギゴチない變音である。

なほ多々批判すべきこともあり、又一般的に國際語の構成道程をも論じたいが長くなるから他日に譲り、茲には Novial 發表以後既に一年餘になるが世界を通じて未だコトリとも反響がない事を noti して止める。

最後に Nov. と Esp. の數句を並べて讀者諸君自らの吟味の資と致さう:

Lo parla, totim sertim, nulin maxim bonim.
=Li parolas, tute certe, neniel plej bone.

Tum kel non ha bli paga sal bli paga in novembre.=Tio, kio ne estas pagita, estos pagita en novembro.

Nulum es tam bon kam tum.=Nenio estas tiel bona kiel tio.

Lo did osa rupte men ose durant mem pasu e nusen pase pasad. Es terrosi!=Li kuraĝis rompi mian oston dum mia paŝo kaj nia paco forpasis. Estas terure!

Lo porta porte in li portu.=Li portis pardon en la haveno.

Me prega vu, ke vu non prega a Deo.=Mi petas vin, ke vi ne preĝu al Dio.

日支親善にエスペラントを

粟飯原 晋

43. フランス人の國語愛

『パリは世界各國人の市場であり、遊びに来る外國人の落して行く金で、或は半は經濟を立てゝゐると云つていゝかも知れない。だからパリ人は外國人に對して、とても親切であり、如才なく立廻つてゐる。殊にパリではアメリカ人が最上の顧客である。陰では惡口は云つても、實際アメリカ人に面さむかつては、お世辭だらだらひの百萬遍だ。然し、パリでは、東京のやうに、アメリカ映畫の字幕をメリケン語そのまゝにして上映すると云ふことは決してない。題目から配役から、總てフランス語に改めて映寫する。字幕の翻譯者の名までちゃんと出るのだ。』

パリで上映するならば、パリ人——フランス人を觀衆と見なすのが當然のことだ。従つてフランス人に理解させるやうに取計らふのも當然すぎるほど當然だ。が、その當然なる事が、日本では行はれてゐないんだ。(中略)速かに舶來映畫の字幕を日本語に翻譯することを當事者に要求する。これは日本人として要求すべき義務であると同時に、權利でもある。』(岡田三郎氏『舶來映畫の字幕を日本語化せよ』Oct. 10, 1929 國民新聞所載)。

米國大藏當局の調査に依ると、1927年中、米國人がフランスに落して行つた金は一億九千萬ドルであり、日本に落した金は僅かに七百萬ドルである。最後の財政難の際、これだけの金をばら撒いてくれる米國人に、何等おもれる處なく、米國映畫の字幕を自國語に改めるといふフランス人の毅然たる國語愛の精神が羨しい。國粹首相ムソリーニを戴くイタリアの映畫檢閲局も最近外國語を含むトーキーは一切通過させぬ方針に決したとのことであるが、國語の擁護に熱心なイタリア政府のやりそうな快舉だ。

44. 日支親善にエス語を

日支間の同文同種といふ消極的な親善論は古い。相互に支那語も分らず、日本語を解せずして何の意志疏通が出来やうか。古い同志下瀬謙太郎氏の説かるゝエスペラントに依る日支間意志疏通論は、醫學界を對象とせるものであるが、之は獨り醫學界丈けの問題でないと思ふ。茲にその所論の一部を引用する。

『……日支間相互の理解はお互の言語を學ばざる限り、常に譯文又は通譯に頼ることになる。通譯は面倒だと云へば、勢ひ我は支那語を學び、彼は日本語を學ぶまでゝあるが、斯くて、英(米)、獨、佛、伊等幾多の外國語を修むる外に、一層骨の折れる支那語を學ぶことは、蓋し何人も逡巡するところでありませう。さりとて意思疏通、學問交換の方法は無くしてはならぬ。それは歐米各國との間に於ても全く同一であるが、此の問題こそは世界の醫學界に向て十數年前我が村田醫學士(現に大阪外島療養所長)の大聲叱呼したエスペラントによつてのみ解決さるべきものでありませう。』

列國の間に均等の理解を得らるゝと云ふ重大なる意味から、獨り日、支と云はず、世界各國の醫人(醫學生も亦)が、自發的にエスペラント講習に猛進することは最も願はしいことでありませう。人工國際語はそのものに就ては各人に意見もあり、好惡の念も別かれて居るかと思ひますが、國際的意思疏通の方法として今日エスペラント以上のものは無いと云ふても差支はない。之に依て數多の外國語を學ぶエネルギーを節約される丈でも、非常の恩惠かと思ふのであります。斯様に申せばさて、必要の上から、若くは趣味の上から各種の語學を特修することは、從來と同じく大いに推奨すべきことは勿論であります。』

(同仁、第三卷第十一號)

質 疑 應 答

小 坂 狷 二

〔訂正〕前號本欄に Li pelis antaŭ si tutan gregon da bovoj (Andersen, Fabeloj I, p. 15) の gregon は arego の誤植であること書いたのに對して川崎直一さんから Wüster の Enciklopedia Vortaro に (gewöhnl. brutaro) zool. u. allg. Herde; grego da bovoj, Rinderherde とあり、同氏 Zamenhofa Radikaro にも Fabeloj I, p. 15 に grego があること出てゐる事の御注意あり。してみると grego は arego の誤植ではなく『brutaro (家畜の)群』の意であることになります。茲に訂正すると共に川崎兄の御注意を謝します。

なほ grego は Fabeloj I, p. 15 の該箇所です。初めてお目にかかつたわけで、他には一度もぶつかつた事はありませんし (Wüster の出典も同様此の頁からで、恐らくは Zamenhof も他に之を用ひたことがないのではないかと思はれるし、又 gewöhnlich brutaro としてゐる) Zamenhof が此の處に grego を如何なる語源から採用使用したかはわかり兼ねます。或はラテン語の grex かとも思ひますが英佛獨三現代語にはどうも語源と思はれるものがない。尤も英 gregarious, 佛 grégaire なる形容詞がありますが、どうもなぜ Z 氏が aro の外に之から grego を引つぱり出して用ひたか疑はしく思はれます。g が a の字體の似寄りから來た誤植でないとするとか何か他に語源たるべきものがあるのではないかと思ひますが、御氣附の方の御教示を仰ぎたいと思ひます。

★模範エス獨習 p. 151 及び p. 258 の (a) Vi povas redoni al mi la monon, kiam ajn vi povos. (b) Li povas alveni en ĉiu horo. の二文を漫然と讀んだ時私には (a) kiam ajn…を除いた Vi povas redoni al mi から受ける感じが『金を返すことが出来る(くせに仲々返さない)』, (b) 『いつでも來れる(が來ない)』の様な感じがヒンと來ますが、そう考へて悪いでせうか。(静岡縣、奥野氏)

〔答〕Povi は單に日本語の『出来る』と云ふ譯を下しただけでは足りない。即ち『出来る』は povi の或る場合の意味で、從つて日本語に譯すとなる場合々々によつて色々譯がちがふわけです。即ち povi としてはその色々な場合にぶつかつてゐれば直接 povi から受ける概念が自然日本語の『出来る』とは異つて來る。依て Esperanto になれて來れば御尋のような氣持ちはなくなつて來ます。

これはいつも云ふ通り『國語(日本語のみならず英、佛、獨語等も)を離れよ』によつてなすんで來ることにより、初めて Esperanto が我がものになるわけです。例へば

Ĉu mi ankaŭ povas iri? は私も行『ける』か=Ĉu estas eble, ke mi iru? ですから『私も行つてよろしいか』。Jes, vi povas iri. 『うん、行つてもよいよ』(ゆるされ得る)。Li venos morgaŭ. 『明日來るよ』は斷定で Li povas alveni en ĉiu horo (La Revizoro, p. 6, l. 5) は『有り得る即ちかも知れぬ』=Estas eble en ĉiu horo, ke li alveturas. 何時到着するやもはかり難い(何時でも到着することがあり得る)。又 Li ne povas esti honesta は彼は正直で『有り得ない即ち有る筈がない』=Estas ne eble, ke li estas honesta.

なほ數例:—

En malbona vetero oni povas facile malvarmumi (Ekzercaro; Fund. Krestomatio, p. 18).

お天氣の悪い日には風邪をひきやすい(引くことがたやすくあり得る)。

Ĝi prezentas simple mian personan opinion, kiun ĉiu el vi povas aprovi aŭ ne aprovi (Zamenhof 博士の第三回萬國大會演說中)。

是は單に私一個人の意見でありまして之を賛成なさうとなさるまいとそれは皆様各自の御隨意です(賛成してもしなくてもよい、ごちらも爲し得る)。

Ĉe tiu ĉi malsano unu horo povas decidi inter vivo kaj morto (Fund. Krestomatio, p. 108, l. 8).

此の病氣では一時間で生死を決することがある(有り得る)。

Oni forte povus ion diri kontraŭ tio, kaj la aferoj ne estas egalaj (Georgo Dandin, p. 10, l. 9).

それや此事に對しては強いて異見も云へようがしかも此等の事件は同一ではないのだ。

即ち povi は英語の can のみならず may の意をも含む。實際英語で can と may とは混同せずに使ひ得るようになるのは難事である。例へば上例で One might say something against this か One could say か多くのものは迷ふことと思ふ。その前の例でも can decide でも may decide でもごちらでもよい。即ち Esperanto としては二者を區別しなかつたのは當然であらう。

Notoj pri l' Bibliaj Vortoj

(4)

宇都宮 正

Kiel klare montras la suprecititaj versoj, la vorto 'dua' devas esti subkomprenata en la senco de 'alia'. Kaj en tiu kazo ne rilatas nombran ordon la vorto 'dua'. Kaj tial eĉ se oni substituas la vorton 'alia' sur lokon de 'dua', la signifo de l' frazoj neniom ŝanĝiĝas. Por studo mi citos ĉi-sube anglan tradukon de unu el la supremetitaj citadoj el la Biblio.

"And Lamech took unto him *two* wives: the name of *the one* was Adah, and the name of *the other* Zillah".

Atente komparu la anglan frazon kun Esperanta. Kvankam la angla vorto 'second' havas sencon 'alia', tamen oni uzis la vorton 'other', sed ne 'second'.

Kompreneble en la sekvantaj frazoj 'dua' devas esti komprenata en sia unua kaj propra senco kaj do ĝi rilatas nombran ordon.

"Ĉi tiu estas la granda kaj la *unua* ordono. Kaj '*dua*' estas simila al ĝi." (Mateo 22^{38 39})

"これは大にして第一の誡命なり、第二もまた之にひさし" (Japana traduko)

"Kaj en la sescentunua jaro, en la unua tago de la *unua* monato, forsekigis la akvo sur la tero; Noa malfermis la tegmenton de la arkeo, kaj li vidis ke sekigis la supraĵo de la tero. Kaj en la *dua* monato, en la dudeksepa tago de la monato, la tero elsekiĝis." (Genezo 8^{13 14})

Mi permesas al mi citi ankoraŭ kelke da ekzemploj je referenco por legantoj.

"En unu vilaĝo loĝis *du* viroj, kiuj ambaŭ havis la saman nomon. Ambaŭ estis nomataj Niko, sed *unu* el ili posedis kvar ĉevalojn kaj la *dua* nur unu ĉevalon."

(I Andersen-Fabeloj, p. 7)

"Tiam li turnis sin *unuflanken* kaj *aliflanken*,

kaj vidinte, ke estas neniuj, mortigis la Egipton kaj kaŝis lin en la sablo." (Eliro 2¹²)

"La Filiŝtoj staris sur la monto *unuflanke*, kaj la Izraelidoj staris sur la monto *duafle*anke, kaj la valo estis inter ili." (I Samuel 17³)

5. Gofer.

'ゴフル' と譯する。

En la Biblio ĉi tiu vorto estas uzita nur unufoje, kaj en la papana Biblio ĝi estas tradukita 'pino-arbo'.

"Faru al vi arkeon el ligno *gofera*; apartaĵojn faru en la arkeo, kaj ŝmiru ĝin per peĉo interne kaj ekstere." (Genezo 6¹⁴)

"汝松木をもて汝のために方舟を造り 方舟の中に房を作り瀝青をもつて其内外を塗るべし。"

Dro Zamenhof transliteris la hebrean vorton, ne tradukinte ĝin kiel en Angla-Biblio.

"Make thee an ark of *gopher* wood; ..."

Preferinde estas transliteri ol traduki per netaŭga vorto en la okazo kiam necerte estas, kio aŭ kia estas la vorto. Do mi ankaŭ la vorton 'gofer' transliteris 'ゴフル'.

Probable 'gofer-arbo' estas cipreso kiel Dro A. S. Peake diras, ĉar laŭ tradicio Noa faris la arkeon el cipres-ligno.

6. Kultivi.

耕作す, 培養すと譯する。

En sia Vortaro Dro Kabe klarigis la vorton 'kulturi' jene:

1. Plenumi la laborojn, kiuj faras la teron fruktodona: kulturi kampon.
2. Civilizi: kulturita nacio.
kulturo: civilizacio.

Sed Dro Zamenhof enkondukis la vorton 'kultivi' por la unua senco de 'kulturi' en M. T. Jen sekvas la ekzemploj.

(daŭrigota)

新 刊 紹 介

大 島 義 夫

★**HODINKA**, de Leo Tolstoj, trad. de Javoronkov el ru a lingvo. 11×15 cm. p. 62. prez. 0.60 g. mk. eld. de SAT. Leipzig. 1929.

内容は N. Modenov. による解説、V. Javoronkov 譯 “*Hodinka*”, N. Jeltov 譯 “*Nikolao la Bastonulo*”, 學士會員 M. Friče の “*L. Tolstoj kiel moralisto*” から成る。SAT 叢書第9巻。Tolstoj のものは何れも死後に発見せられた珍しいもの、“*Hodinka*” には前のツアーの即位に際して民衆に寄捨をした時數千の人間が踏殺された悲惨事を扱つてある。“*Nikolao la Bastonulo*” は亂暴な軍隊生活の暴露。最後のものは、身邊に押し迫つて来る 1905, 1917 の變革の氣運を感じながらも貴族出の Tolstoj は、それを理解し得ず空虚な主義を振廻はしていた事實に對する批判。

日本文學とは縁の深い Tolstoj の新しい作品や新しい批判はひろく一般の關心を持ち得ることであらう。

★**LA VOJOJ DE FORMIĜO KAJ DISVASTIĜO DE LA LINGVO INTERNACIA**, de E. Drezen. trad. de N. N. el rusa lingvo, 11×15 cm. p. 64. prez. 0.60 mk. g. eld. de SAT. Leipzig. 1929.

SAT 叢書 No. 10 著者は國際語史で名のあつた人。ロシアの SEU の中心をなす一人。

Esp. 運動の進展するにつれて、今や吾々は最早單なる感激昂奮によつて esp. を普及し宣傳する綠色觀念論を去つて、正しい科學的理解の下に言語として、社會的文化的運動としての esp. を把握しその確立された理解の上に吾々の研究、運動を基礎づけねばならない時期に當面している。即ち如何に esp. が Zamenhof を通して發生したか、何故に esp. のみが他の數百の國際語の中にあつて成功したか、如何なる理由で Ido は、Interlingua は社會的に立ち得ないのか等々の問題に對して吾々は批判の眼を向けねばならない。かく、esp. を言語的に社會的歴史的に討究批判し、その必然性を確保し得てこそ、吾々の esp. に對する理解は正しくされ、吾々の今後の運動進展の方向を見究はめ得るのである。

かゝる批判的内省的研究の一つの表れとして本書を認め得る。

Z 博士によつて作られた esp. は *aposteriora* な點に於て、數千年來の人類實踐の結晶たる言語の本質を捉え、Schleyer に於けるが如き獨裁的創造者の地位を捨て、單なる提唱者として *Fundamento* 一卷を投じて、その將來に於ける發展を社會的 *kolektiva kreado* に委した點に於て esp. の現在に於ける確固たる存在の根底を形づくる要因を持ち得たと著者は論證している。Esp. 本質論の有益な研究書としてすべての esp-isto に推す價值がある。尙、卷末には、17世紀より現在に至る數百の國際語の *kronologio* が附せられている。

★**MIGLANTA PLUMO**, de Julio Baghy. 12×16 cm. p. 158, prez. 0.60 dolaro. eld. de Hungarlanda Esp. Societo. Budapest. 1929.

現在の esp. 文壇の持つ最も優れた作家の一人、J. Baghy 新著。詩、劇、短篇など 20 篇ほど集められてある。

著者の持つよく消化された、新鮮な esp. には、すべての esp-isto の觸れ且つ味うだけの價值がある。本書の内容は例によつて著者一流の *melankolia moderneco* たつぷり、*romantika* な三角戀愛や空虚な *humaneco* の物語が目につく。*sprita* な *amo* の周りに踊り狂うのも現代文化の一つの相には違いないが、*talenta* な *fresa* な著者の持つ *stilo* が泣こうと言ふものだ。

★**POEZIOJ DE L. L. ZAMENHOF**, skribitaj en Esperanto Stenografio Duployé-Flageul. p. 16. 11×16 cm. eld. Esp. Stenografio, 9. Boul. Voltaire, Issy. Seine, Francujo. 1929.

Duployé-Flageul 式 esp. 速記で書かれたザメンホフの詩集。速記された “*Ho mia kor’*” や “*Mia penso*” なんぞを *gui* するなんて、ザメンホフもそのウルトラ、モダン振りに驚くことだらう。

★**GEMOJ DE LA HUNGARA POPOLMUZIKO**, unua kajero, aranĝita de A. Huber, p. 15, 12×20 cm. eld. Esp. Grupo de Hungara Nacia Asocio. 1929.

精選されたハンガリアの民謡五篇樂譜付。

MALGRANDA PEĈJO

[Dialogo prezentita de Klara-anoj okaze de la 17-a Kongreso de Japanaj Esperantistoj]

— Personoj —

Peĉjo
Ferpoto

Karbero, A)
Patrino de Peĉjo

Karbero, B)
Galanto

Alumeto

Peĉjo Jam vesperiĝis. Estos ankoraŭ tempo antaŭ ol Panjo revenos. Ho, kiel solece!

Karbero, A) Solece! Kial vi vin sentas soleca?

P. Estas solece resti tute sola en la ĉambro en la vespero.

Karbero, B) Sed vi tute ne estas sola. La tuta ĉambro estas plena de objektoj. Ili estas ĉiuj viaj amikoj.

P. Amikoj! Kiuj vi estas?

K, A.) Ni estas karberoj. Ĉu mi rakontos al vi mian historion, kara Peĉjo?

P. Ho, dankon, mi tre volas aŭdi.

K, A.) Ni kuŝis sur malluma fundo de la tero. Mi dormis agrable en tiu malluma loko kun mi j gefratoj. Iun tagon tero defalis, kaj mi ekruliĝis. Mi falis en lokon tre mallargan kaj malaltan. Tie ĉirkaŭ dek homoj laboradis.

K, B.) Ili spiregis, kaj ŝvito fluis de sur iliaj fruntoj. Ili laboradis kun kliniĝintaj dorsoj. Per mallumaj lanternoj mi komprenis ke ili fosadis nin karberojn per pioĉoj. Estis varmege, kaj laboristoj suferis, ĉar ti preskaŭ ne estis oksigeno.

K, A.) Tiam venis tre dika viro kun aroganta sintonado. Laboristoj petegis al li, "Ho, sinjoro, ĉi tie strange odoras. Ni timas ĉu iu malbonaĵo okazos. Bonvole permesu a ni tuj reiri."

K, B.) Tiu dika homo tre koleris, kaj neniel permesis al ili eliri. Tamen li mem tre rapide forkuris el tiu malluma loko.

P. Kiel hontinde!

K, A.) Subite aŭdiĝis surdiga tondrego, kaj mi saltis alten!

P. Kio okazis?

K, B.) Estis eksplodo. Kiam oni eks'eren portis kadavrojn de mizeraj laboristoj, ho, kiel, ploregis iliaj malfeliĉaj edzinoj kaj infanoj.

P. Kion faris tiu dika viro?

K, A.) Ho, li abomenulo! Tiun saman vesperon, tiu dika viro havis tre luksan feston ĉe sia domo, kaj invitis gastojn. Multaj riĉaj gesinjoroj tie dancadis kaj kantadis.

P. Kial la riĉulo ne helpas mizerajn suferantojn?

K, A.) La riĉuloj laborigas laboristojn por si mem. Ĉio kion faras la malriĉaj homoj, utilas sole al la riĉaj.

K, B.) Ekzistas pli multe da malriĉuloj ol riĉuloj. Kial ili ne kuniĝos? Kial ili ne staras por akiri la frukton de sia propra laboro?

K, A.) Pri tio vi devas demandi al homoj. Ŝajnas ke homoj ne estas tre saĝaj estaĵoj.

P. Ĝis nun, mi ĉiam pensis ke mi estas tute sola. Sed mi ne estas.

Alumeto Ne, vi ne estas sola, tion vi ja komprenis per la rakontoj de karberoj.

P. Kiu vi estas?

A. Mi estas arbo.

P. Vi? Tia malgranda aĵo estas arbo? Ĉu vi ankaŭ rakontos vian historion?

A. Mi ja estas arbo. Eble vi neniam vidis grandan arbaron. En granda arbaro loĝas tre multe da birdoj. Sed ili ne loĝas tiel densarigite kiel ĉe vi homoj. Birdoj povas loĝi tute libere ĉie kie ajn ili volas en tiu arbarego. Neniam okazas ke unu birdo loĝadas tute sola en grandega domo kun multaj ĉambroj, dum aliaj multaj devas kunloĝi en malvasta ĉambreto. Se troviĝas iu birdo kiu volas ĉion proprigi, tian aĉulon ni ĉiuj kune forpelas. Ŝajnas ke homoj ne estas tre saĝaj estaĵoj.

P. Karbero ankaŭ diris same kiel vi.

A. Ĉiu ajn diros same, ĉar ĝi estas vero. Ekzemple, en la granda arbaro, kie mi estis, kuŝis multe da defalintaj, velkintaj

branĉoj en aŭtuno. La posedanto de la arbaro tute ne bezonis tiajn branĉojn, kaj lasis ilin kuŝantaj sur la tero, kaj putriĝi. Foje, najbaraj maljunulinoj kiuj ne povis aĉeti karbojn pro malriĉeco, venis en la arbaron por kolekti la defalintajn, sekegajn branĉojn. Sed kiam la posedanto ekvidis tiujn maljunulinojn, kolektantajn defalintajn branĉojn, li kolere insultis kaj forpelis la maljunulinojn.

K, A.) Netolereble!

P. Hontindaĵo!

A. Ni ĉiuj ne povis toleri, precipe juna abio tre indignis. Tiu abio havis malsanon ĉe sia radiko, kaj li decidis ke li nepre punos tiun senkoran abomenulon antaŭ ol li mortos pro malsano. Ĉe ni arboj, ankaŭ estas grandaj kaj malgrandaj, fortikaj kaj malfortikaj, same kiel ĉe homoj. Sed ni konscias ke la bonaj tero, aero, kaj suno, la pluvo kaj roso, apartenas egale al ĉiuj estaĵoj.

K, A.), B.) Ni tute samopinias kiel vi.

P. Kion faris tiu abio?

A. Iun tagon, la malbona posedanto venis en la arbaron. Kiam li haltis sub la juna malsana arbo, tiun momenton la arbo streĉis ĉiujn siajn fortojn, kaj peze falis sur tiun senkoran viron, kiu kruele turmentis senhelpajn malriĉulojn.

K. (*kune*) Brave, brave faris juna abio! Admirinda abio!

Ferpoto. Kompare kun vi, mi havis tre mizeran vivon, kara alumeto. Mi ankaŭ estis elfosita same kiel vi, karaj karberoj, el la tero. La granda fabriko kien mi estis sendita, estis multoble pli terura ol subtera malluma loko. Vera infero ĝi ja estis! En grandegaj fajrujoj konstante flagras flamegoj. La aero estas tiel sufoka, atmosfero tiel varmega, ke la vizaĝo kaj manoj doloras. La korpoj de laboristoj tremadas pro nerva penegado esti singarde-maj por eviti ĉirkaŭantan danĝeron. Fine mi fariĝis ronda, maldika tubo. Mi portiĝis sur la ŝultro de viro en kakivesto.

P. Ho, vi fine fariĝis pafilo, kiel bone!

F. Kio? Pone? Pro kio estas bone fariĝi pafilo? Ĉu homoj estas tiel malsagaj jam de infaneco? Ĉu vi ne scias ke pafilo estas hommortigilo? Ĉu vi scias kion oni faras per pafilo? Ĉu vi ĉiuj scias militon? Plej abomeninda estas milito! Mi ja spertis

bataalkampon. Miloj da homoj buĉis kaj buĉadis unu la alian. Post la diabla interbuĉado, riĉuloj estis multe pli riĉaj ol antaŭe, kaj aliflanke, senhelpaj vidvinoj kaj senedukaj orfoj ĝemadis en mizerego. Post la malbeninda milito, mi ja fariĝis ferpoto. Mi jam longe estas paca servilo. Sed kiam ajn mi rememoras tiun militon, mi tute ne povas resti trankvila, ne povas!

A. Efektive, vi vidis kaj spertis teruraĵon!

K, A.) Estas tute nekompreneble ke homoj estas tiel malsagaj!

F. Kiam mi fariĝis tre bela ferpoto, iu riĉulo aĉetis min. En lia domo estis tiel multe da luksaj mebloj. La riĉulo posedis ŝipojn, kaj dum la milito gajnis grandegan profiton, transportante armilaron, per siaj ŝipoj. Al mi estis pli preferinde morti ol restadi en la domo de tia aĉulo. Sed ho, ve, estis nenia helpo!

A. Kompatinda ferpoto!

K, B.) Neniu ŝatas restadi en tia domo!

K, A.) Kompreneble ne!

F. Fine mi truiĝis. Tiam la domanoj kiuj longe uzadis min, neniam provis ripari min, sed forĵetis min. La kuireja knabo kompatis min, kaj repreninte min el rubujo, donis min al sia amiko.

P. Ĉu vi venis al bonkora familio?

K, A.) Ĉu la nova familio traktis vin bone?

F. Jes, ili estis bonkoraj kaj amis min. Sed ili estis tre malriĉaj. La patro fariĝis lama dum li laboradis en fabriko. En tiu fabriko oni fabrikis armilojn. Kiam li grave vundiĝis, la fabrikmastro maldungis lin.

K, B.) Mi plu ne povas toleri, ne povas, ne povas!

K, A.) Terura maljustaĵo!

P. Ĉu estis infanoj en tiu kompatinda familio?

F. Jes, kara Peĉjo, estis du malgrandaj infanoj en tiu familo. Estis vintro. Pro malvarmego, la infanoj tutan tagon ploradis. Al la patro la vundita piedo akre doloris. Ĉar li estis senlabora, li vendadis ĉion kion li posedis por aĉeti panon. Fine al ili nenio restis por vendo. Mi pensis ke se ili vendos min, ili ankoraŭ povos akiri iom da mono.

K, A.) Tre bona ideo, kvankam doloras min la ideo.

F. Mi tre malĝojis disiĝi de tiuj bonaj homoj kiuj amis min. Sed por helpi ilin, mi saltegis antaŭ la patrinon. Ŝi ekkriis, "La poto! Vere ni ja ankoraŭ posedas la

poton!" La du infanoj alkuris al mi, kaj karesante min, ili diris, "Kara poto, adiaŭ! Ĉiam estu bonsana!" Mi ekploris. Tamen kiam la patrino vendis min, mi estis tre ĝoja, ĉar mi sciis, ke tiam ili ekhavis varman fajron, kaj manĝaĵon.

K, A.) Kiel bone vi faris!

A. Vi tre ĝojigas min!

F. La trian tagon de kiam mi eksidis ĉe la ĉifonaĵisto, virino aĉetis min!

P. Tio ja estis mia panjo!

F. Efektive estis ŝi!

P. Ĉu vi restados kun ni?

F. Jes, kara Peĉjo, mi volas restadi kun vi ĝis mia morto.

(Patrino envenas)

Patrino Ho, mia Peĉjo!

P. Ho, Panjo!

Patrino Vi ŝajnas tre feliĉa, Peĉjo!

P. Jes, Panjo. Mi estas vere feliĉa. Mi trovis multajn amikojn en la ĉambro, kaj ili ĉiuj rakontis al mi siajn historiojn.

Patrino Vere! Mi ankaŭ tre volas aŭdi, sed unue mi preparos vespermanĝon.

P. Ho, Panjo, tio estas galanto! Kiel bela! De kie vi alportis ĝin?

Patrino Mario, mia kunlaborantino, ricevis ĝin de sia onklo, ĝardenisto, kaj ŝi donis ĝin al mi por konsoli vin. Belega, ĉu ne? Mi tuj alportos vespermanĝon.

(Patrino foriras)

K, A.) Estu bonvena, kara galanto! Vi alportas al ni bonan sciigon, ke la vintro baldaŭ finiĝos.

*

*

*

*

*

1) *De sango nia fluas lago
De larmoj niaj estas ĝi;
Sed venos tago de l' repago,
Juĝantoj tiam estos ni,
Juĝantoj tiam estos ni!
(Rekantaĵo)
Kune do, sonu kant' de l' falang',
Standardo flirtas en fulm' ruĝa
Kaj kun ĝi nia venĝ' per lavang'
De la estonta dank',
Koloro ĝia estas ruĝa,
Ĉar sur ĝi laborista sang'
Ĉar sur ĝi la'orista sang'!*

2) *Malnobla baldaŭ mond' pereos,
For la tiranoj kaj perfort'!
Ni mem la novan vivon kreos,
En kiu regos nova ord'!
En kiu regos nova ord'!*

A. Bonvenon kara fratino. Bonvole rakontu al mi pri la naturo, pri miaj karaj gefratoj en arbaro.

Galanto Jes, la printempo alproksimiĝas; viaj arbofratoj elvekiĝas. En la tero, nova vivo ekestas. La malbona longdaŭra vintro ankoraŭ kredas esti potenculo; sed ĉiutage la printempo diradas al ni "Estu bravaj, persistu. Vi venkos!"

F. Vintro estas tre potenca, Kiamaniere vi malfortaj, malgrandaj floroj kaj burĝonoj povos venki ĝin?

G. Ni estas multenombraj, nekalkuleble multaj. Plue ni havas konvinkon pri nia venko. Tiuj kiuj laboras por si mem, iam nepre estos venkitaj. Tiuj kiuj laboras por ĉiuj, ĝuos la lastan venkon.

F. Domaĝe, ke la samo ne estas ankaŭ ĉe homoj.

G. Certe la samo estos ankaŭ ĉe ili. Se la multaj kiuj produktas kaj laboregas, kuniĝos, kaj forpelos la areton mallaborantan.

K, A.) Tiam neniu mortos en minejo.

F. Tiam eterne ĉesos milito!

A. Tiam sur kampo kaj en arbaro, homoj vivos interhelpante.

P. Tiam mia kara Panjo plu ne devos restadi la tutan tagon en la fabriko!

G. Ankaŭ por la homoj la eterna printempo venos. Ili nur devas kunklopodi ĝis la bela sonĝo de l' homaro por la eterna beno efektiviĝos!

P. Ĉu ni ne kantos kune?

Ĉiuj kune. Jes, ni kantos.

1) *Fratoj, kuraĝon ne perdu
En la batala danĝer!
Landon — patrinon defendu
Pro la honor' kaj liber'!
Se jam pereis ni devos
En luktoj kun tirani'
Eĥon de l' ago eklevos
Viva la generaci',
Viva la generaci'!*

2) *Mond' renaskita ekfloros,
Havos liberon homar':
Bene ĝi nin rememoros,
Venos al nia tombar'.
Do se pereis ni devos
En luktoj kun tirani'
Eĥon de l' ago eklevos
Viva la generaci'!*

[FINO]

SKIZOJ DE INDONEZIAJ POPOLOJ

Prof. E. Asai, Osaka Kolegio por Fremdaj Lingvoj

Princino Bambuo

[II]

(Malaja Rakonto)

La rakonto. Estas priskribite, ke Raja Ahmad post kelka tempo fondis ankaŭ unu urbon malantaŭ tiu arbaro, malproksima unutagan piediron de la urbo de la frato. Ĝi estis provizita per fortikaĵo kune kun palaco kaj salonego. La reĝo loĝis en la urbo kaj ŝatis manĝi kaj trinki kun ĉiuj soldatoj. Post kelka tempo li iris ĉasi en la arbaro, sed eĉ unu ĉasaĵon li ne povis akiri. Li renkontis unu templeton meze de la arbaro. Troviĝis unu maljunulo en tiu templeto. Raja Ahmad donis saŭton al tiu maljunulo, kaj tuj estis salutita de li. Raja rakontis al tiu maljunulo pri tio, ke lia frato akiris princinon en la arbaro. La maljunulo respondis: “Haj, filo mia! Se vi volas akiri infanon, volonte mi montros ĝin al vi. Atendu tie ĉi unu momenton.” Raja Ahmad atendis. Post unu momento alvenis tre granda elefanto. Unu infano sidis sur la kapo, kaj la elefanto banis la infanon en rivero. Fininte bani, la elefanto alportis la infanon al la riverbordo. La elefanto iris ree sin bani. Kiam la elefanto finis sinbanon, ĝi metis la infanon sur la kapon kaj portante iris en la arbaron. Tiel estis la afero, ĉiujn agojn de la elefanto vidis Raja Ahmad. Diris Raja Ahmad: “Haj, patro de la junulo! Volu uzi artifikon al tiu infano, por ke ni ĝin akiru.” Diris Raja Ahmad: “Haj, patro mia! Se oro aŭ juvelo estus montrita aŭ donita al mi, mi ne ĝojus tiom, kiom mi vidas tiun ĉi infanon.” Diris Raja Ahmad: “Mi volas adiaŭi kaj reveni al mia urbo. Kiu estas la vojo por eliri?” La maljunulo montris la vojon, dirante: “Tiu estas la granda vojo.”

Eliris de tie Raja Ahmad. Subite li atingis sian urbon. Kiam li alvenis al la palaco, la reĝino staris ĉe la pordo de la palaco por bonvenigi alvenantan Raja'n Ahmad. Diris Raja Ahmad al la reĝino: “Ajohaj,

〔インドネヂヤ民族〕 浅井惠倫 pri'skrib'ita
記述せられた、post kelka tempo 暫くの後、
unu'taga pied'iro 一日の徒歩、proviz'ita per
……の設がある、fortik'ajo 城砦、salon'ego

大廣間、ĉas'ajo 獵の獲物、akiri 得る、meze
de=en la mezo de. templ'eto 僧庵、Haj! あ
ゝ! unu momenton 一寸の間、al'veni やつて
来る、bani 沐浴させる、ree 再び、sin'bano

mia fratino reĝino! Kvankam mi iris ĉasi, eĉ unu ĉasaĵon mi ne povis akiri. Mi ne vidis ĉasaĵon, sed mi renkontis unu templeton meze de la arbaro, kaj estis unu maljunulo kaj li salutis al mi. Mi rakontis al li pri tio, ke mia frato akiris princinon en bambuaro. Diris la maljunulo: “Se vi deziras havi infanon, Bone! Mi ĝin montros al vi. Atendu ĉi tie unu momenton!” Mi atendis, post unu momento alvenis treege granda elefanto. Unu infano sidis sur la kapo. La elefanto banis la infanon en rivero. Kiam la elefanto finis ĝin bani, ĝi alportis la infanon al la riverbordo. Ĝi ree iris sin bani. Kiam ĝi finis sinbanon, ĝi metis la infanon ree sur sian kapon. La elefanto iris ĝinportante en la arbaron. Tia estas mia viditaĵo. Diris la reĝino: “Ja, via Majesto! Bonvolu, se eble, preni per artifiko tiun infanon.” Raja Ahmad eliris de la palaco por amasigi ĉiujn soldatojn. Kiam ĉiuj jam amasiĝis en aŭdienco de Raja Ahmad. Al ĉiuj soldatoj li rakontis pri la infano, kiu sidis sur la kapo de elefanto, kaj sciigis, ke li volas akiri per artifiko tiun infanon sur la kapo de la elefanto.

En iu bona tago la reĝo kun ĉiuj soldatoj iris al la arbaro ĉe la loko, kie la elefanto banis la infanon. La maljunulo ĉe la templeto malaperis kune kun la templeto; ambaŭ estas ne plu videblaj tie. Ĵaŭde ĉiu fosis la teron por fari lokon de sinkaŝo por prŝni la infanon. Vendredo alvenis. Eliris la elefanto de la arbaro alportante la infanon al la rivero ĉe la loko, kie li banis antaŭe. Kiam ĝi atingis la riveron, ĝi banis la infanon. Kiam ĝi finis banon, ĝi alportis la infanon al la riverbordo, kaj sin banis. Rapide Raja Ahmad prenis la infanon. Portante la infanon li rapide iris. La elefanto vidis kaj sekvis Raja'n Ahmad. Ĉiuj soldatoj forigis kaj kelke de ili forĵetis la elefanton. Ĝi, tamen, daŭrigis sekvadon. La elefanto estis nomita Bujang Sakalis, kaj ĝi estis sola, vivanta ne longe en tiu ĉi mondo. Raja Ahmad marŝis al sia urbo kun la tutaj soldatoj. Li alvenis al la palaco, kaj la reĝino staris ĉe la pordo por bonvenigi Raja'n Ahmad. La reĝino vidis la infanon, tuj alprenis al si, kaj salutis al Raja Ahmad. La mieno de la infano estis tre bona, kaj ĝi estis nomita Merah Gajah (Princo Elefanto).

(Daŭrigota)

沐浴、ago 行動、artifiko 策略、juvelo 寶石
adiaŭi 暇乞ひする、subite 突然に、bon'ven'igi
迎へる、river'bordo 川岸、bambu'aro 竹藪、
via Majesto! 陛下、amasigi 集める、ne plu

もはや……しない、aŭdienco 謁見、mal'aperi
なくなる、消える、fosi 掘る、sin'kaŝo 隠れ
る事、for'igi 追拂らう、daŭr'igi 續ける、sola
唯一の。

STRANGA SONGO

De O. J.

El Novial tradukis Oss.

En songo mi vidis kvazaŭ grandan tribunalon internacian. Sur belega trono sidis majeste S-ro Akademio en belega robo de juĝisto. Antaŭ li staris multekolora grupo, kiu evidente venis de ĉiuj partoj de la mondo. La juĝisto ordonas silenton kaj parolas:

“Mi kunvokis vin, karaj amikoj, por aŭdi viajn opiniojn kaj konsilojn, laŭ la principo, ke mi ne volas decidi pri ĉiu afero ne aŭdinte ĉion, kion oni povas diri por kaj kontraŭ. Mi mem opinias, ke la formo *skribar* estas tre bona kaj ja sufiĉe internacie konata por esti alprenata en nian lingvon; sed mi deziras, se estas eble plaĉi al ĉiu. Tial parolu libere!”

Don Ranudo de Colibrados¹ parolas unua. Malgraŭ lia iom eluzita kaj ne tre nova vesto, lia aspekto estas vere aristokrata kaj inspiras respekton. Li diris:

“S-ro Juĝisto, mi apartenas al granda nobla familio de Kastilia, kaj mia lingvo estas parolata de multaj milionoj en Eŭropo kaj en Ameriko. Jen en nia lingvo la vorto, kiun ni devas tie ĉi diskuti estas *escribir*, sed ni havas grandan malfacilecon elparoli *b* je la sama maniero kiel ekzemple francoj kaj angloj; ni diras proksimume *eskrivir*. Mi volas aserti, ke laŭ mia opinio estus multe pli facile kaj pli bone

forigi tiun malfacilan sonon *b* kaj anstataŭe uzi ĉie *v*.”

Tuj Onklo Sam kuris antaŭen, kaj kun grandaj gestoj de brakoj kaj manoj, li ekkriis:

“Ne, Masa Kademi, mi protestas, *v* ne estas facila, *b* multe pli facila por la pli multo, tio estas por la koloruloj. Vi devas esti senpartia, kaj ne faru ĉion por la blankaj sole. Mi ne pob prononc tia literaĉ kaj mi ne dezir lern ĝi, eh?”

La juĝisto sin levis kaj diris:

“Feliĉe mi havas simplan rimedon kontentigi la du honorindajn parolintojn: mi tute forigas la literon kaj diras *skriar* anstataŭ *skribar*.”

Tiam juna finnlandano sin klinis profunde kaj diris:

“Mi havas grandan admiron por via saĝo, s-ro Juĝisto, kaj aprobas vian decidon des pli pro tio, ke en mia patra lingvo ni havas nur *b*. Mia lingvo estas juste konsiderata kiel unu el la plej sonoraj kaj harmoniaj, kaj la kaŭzo estas simple, ke ni havas malpli grandan nombron da konsonantaj grupoj, ol la plej multaj aliaj lingvoj. Ni ne toleras tiel barbaran kunmetaĵon kiel *skr* en la komenco de vorto. La hungaroj certe subtenus mian proponon senigi ĉiujn malfacilajn grupojn.”

“Bonege. Vivu ĉiu plisimpligo. Tial ni diras *riar* anstataŭ *skribar*.”

Hino ja faras multajn provojn

¹ persono en dana komedio de Holberg.

kapti la okulojn de la juĝisto; nun li sukcesis kaj diris:

“Certe ni ĉiuj devas esti dankaj por la granda afableco kaj justeco de S-ro Akademio. Mi vidis kun granda ĝojo, ke sub liaj manoj la lingvo ekproksimiĝis al la mallongeco, kiu karakterizas la plej bonajn inter la naturaj lingvoj, nome la unusilabaj orient-Aziaj lingvoj. Sed via lingvo havas ankoraŭ unu grandan difekton. Schleyer — benata estu pri li memoro — ja montris la bonan vojon, kiun ni devas sekvi. Li aŭdis, ke ni ĥinoj ne povas elparoli la literon *r*, tial li anstataŭigis regule *r* per *l*. Por vere esti mondlingvo la lingvo devas plaĉi ankaŭ al la flava raso.”

“Ni ĉiuj respektas vian malnovan civilizacion, diris la juĝisto, kaj ni estas feliĉaj povi konsideri viajn dezirojn; tial ni diros en la estonteco *lial*. Justeco devas esti blinda.”

“Jes, vi devas esti blinda, interrompis senpacience juna vivoplena

japano, se vi ne vidas, ke mi ankaŭ apartenas al flava raso. Ni japanoj havas neniun *l* en nia lingvo. Se vi volas esti senpartia, vi ne devas preferi lin ol min. *L* devas esti senigita.”

La juĝisto diris: “Malgraŭ la ne tute ĝentila formo de la lasta rimarkigo, mi sentas, ke en la nomo de egaleco antaŭ la leĝo mi estas devigata konsideri ankaŭ la argumentojn de nia juna amiko. Tial mi proklamas kiel rezulton de tiu ĉi tuta tre interesa diskuto, ke la sola formo alprenota anstataŭ *skribar* estas la tre simpla kaj facila *ia*. Per tiu ĉi decido mi estas certa kontentigi ĉiujn.”

“Jes, ĉiujn azenojn!” Neniu povis aŭdi, de kie tiu vorto venis. Sed tuj oni aŭdis teruran bruon de milvoĉa ĥoro de azenoj, kiun ĉiuj ekkriis “ia, ia, ia” tiel laŭte, ke mi vekigis subite de mia dormo.

(Mallongigita pro manko de spaco).

[新撰エス和辭典正誤表ツゞキ——第383頁より]

頁	欄	行	誤	正	頁	欄	行	誤	正
125	左	13	—aj(il)o	—aj[il]o	214	右	17	——	[料]ヲ加ヘル
130	右	-2	練瓦	煉瓦	215	右	11	└	「
131	右	-9	madikag-o	medikag-o	216	左	1	結核菌血精	ツツ [藥]
141	左	15	——	初生兒ヲトル	223	右	-1	(滴蟲類)[動]	(ダマの一種)
141	右	-14	ネーブルス山	ネーブルス市	附錄	2	2	違	異
142	左	-9	骨疽, 脫疽	壊死	附	2	-4	根	尾
144	右	-1	項(ツ)	項(ヅ)	附	3	-2	特別	特定
*157	右	-1	密通	内通	附	7	-12	skcesu	sukcesu
172	左	12	刑務所	感化院, 懲治監	附	8	-12	m ĝata	mangata
187	左	6	血漿	漿液	附	16	-3	そものを	其ものを
193	左	-9	液媒	溶媒	附	17	-11	から	から
195	右	4	spiritismo	spiritism-o	附	19	-10	趣	越
208	右	-15	—ul(ist)o	—ul[ist]o	附	20	5	simila al	simile al
211	左	-6	煎藥	茶劑	附	25	3	i-om	-om
212	左	-15	(化)	[化]	附	27	-12	motriĝis	montriĝis

拙著和エス辭典の批評に對し岡本氏に答ふ

金井 博 治

La Revuo Orienta 十一月號に於て拙著和エス辭典に對し長文の批評を下された事を厚く御禮申し上げます。其に對し私も御答へしたい。

一言を以つて言へば岡本氏の攻撃的批評は的をはずれてゐる事が多い。議論に重大な錯誤がある。辭典發行後一箇月江湖の好評を得て賣行盛大に赴かむとする時我國に最も勢力あるエスベラントの機關紙にかかる批評を掲げられては大部分の地方の本を手にするを得ざる人は

太陽 suno | 月 luno | 酸 acido

以外に其の内容を信ぜざるやうに思はれますから一々答へて見やうと思ふ。

第一に(3)が最も重大のやうであるから此から答へる。

「逆は必しも眞ならず」と言ふ事は私も知つてゐる。然し文章に於ては「白馬は馬なり」の如く逆の眞ならざる場合が大部分であるが辭典に於ては「chevalo 馬」の如く同一内容の單語を列べる事が多い。新撰和エス辭典一萬数千語中逆の眞ならざる場合は三十分の一位であらう。然も此を置換へて和エス辭典を作る場合逆の眞ならざる場合を眞として擧げる程の迂濶はあるまい。現に岡本氏の掲げられた sporto を私の辭典に於て見るがよい。

運動 agado, movado (主義の) sporto
(スポーツ)

となつてゐる。三十分の一の逆の眞ならざる場合の中誤り易い場合は其の三分の一でエス和全體にて多くて二三十語に過ぎまい。而もかう言ふ點に就いては細心の注意を拂つたから誤は無い積である。岡本氏は例外的例外的やうな場合を重大視した點に事實上の錯誤があるのである。又其の他の例 tranĉilo, helpi に就いても詳論したいが事實上

小刀 tranĉilo | 庖丁 tranĉilo
助ける helpi | 補助する helpi

が和エスとして何處が悪いのでせう。其他の掲載方法がありませうか。

第二に 1)の點に就いて御答へする。

本辭典は置換辭典たるの結果日本の日常生活に必要な單語が載つてゐると思ふのである。簡便を期する爲に日常生活に不必要なものは細心に考慮して載せなかつたので本辭

典にはエス和の單語は三分の二位しか載つてゐない。mimiko, cedro, ŝlarfo, pluŝo, stoika, ululo は皆充分考へて必要と思つたればこそ載せた。cedro は明に日本の杉ではない。本辭典にも「杉 cedro (西洋の)」となつてゐる。和エスとして杉が無いのは非常な不出來であり中學の英作文の場合に cedar を用ゐる日本文に始終出て来る杉は japana cedro やラテン語の學名から造つた言葉では感心出来ないもので西洋の杉であるぞと暗示しつつ杉には cedro を用ゐて貰ひたいので載せた。pluŝo は絹綿ビロードで男女の襟、帶などに用ゐられ男女の衣裳等を敘述する場合極めて必要に思はれたので載せた。feluko に就いては本辭典には「帆掛舟 velŝipo, feluko (小)」とある。feluko はどう言ふ形のものか知らぬ。然し日本の小帆掛舟に用ゐたら文章の綾も出非常に面白い様に思はれるので載せた。因に velŝipo はエス和に無い。其他の言葉も皆必要と思はれるから載せた。日本の日常生活に不必要な單語は極めて細心の注意を以つてはぶいたから(1)の點も御安心ありたい。

第三に(2)の點に就いて御答へする。

本辭典は置換辭典たるの結果エス和にない單語はないと言ふのである。そんな事があつたら大變だからこそ和英和獨辭典を一頁一頁繰つたと書いた程である。現に第一頁を開けて見るとエス和に無い「相變らず」「あいびきする」「敢てする」「垢」「あかぎれ」等と言ふ言葉がある。垢などと言ふ單語こそ無くては大變なので haŭtmalpurajo を作つて見た。かう言ふ必要な單語も和英獨を繰らすして自然に思出さるるものではない。現に岡本氏が本辭典に無かるべき筈として掲げられた「北極」が本辭典には arkto としてある。arkto 等と言ふ單語はこの辭典にも無いが考證的偏狹を棄てて載せた。ventro-doloro も koliko がある以上載せる必要もあるまい。且つ少し進むと研究者なら ventrodoloro は造語出来る。vendi を「賣捌く」に入れなかつたのは「賣る」と「賣捌く」はどうも違ふやうに思はれたからである。後で氣がついた事であるが Kabe には debiti は「ごしごし賣る」と言ふ意味である。「賣捌く」の眞の意味の取れなかつたのは私が悪いが意味が違ふと思つたから入れなかつたのは事實である。見物人に spektatoro を擧げ

て rigardanto, vizitanto, vidanto, ĉeestanto を挙げなかつたのは造語を挙げたら切がないからである。初學者は見物人を引いて spektatoro を知ればよく少し進む人は時と場合に依り意味を異にする見物人を適當に造語するに任したい。

お尋ねの novgeedzoprezento は私の造つたものであり trauto は鮎ですが西洋には日本の鮎に相當するものなく英語の trout (鱒) が却つて日本の鮎に當るらしいので英エス辭典で trout に當る trauto を持出した。mesaĝa knabo は Esperanto in 30 lessons と言ふ本から持出した。同じ本から klara supo (軽いスープ) densa supo aŭ konsomeo (濃いスープ) なども持出した。日常生活に極めて必要と思はれたからである。

第四に私の辭典が岡本氏のエス和の置換であると言ふ事に對する感謝と御答をします。

私の和エスは岡本氏のエス和に依る事が多かつた事を感謝します。先づ私が和エス辭典編纂の順序をありのままに申すは始め和獨辭典を一頁一頁繰つて見たが茫大なる辭典としての性質上日本語の用語が實に雜駁で精練されてゐない。此處に於て岡本氏のエス和辭典が小辭典としての性質上語が精練されてゐるので此を基礎として作つて見やうと思つた。固より次に述ぶるが如く私の和エスが岡本氏のエス和に依らなかつた場合も大した相違は生じないだらうと思つてゐたので置換と言ふ事には少しも氣を止めてゐなかつた。エス和がエス・エス、エス英等を種本として翻譯すると同じ位のものと思つてゐた。であるから別に恥づべき事とも思はず製本が出来ると飛び立つ許の喜びで「乞高評」の判を押して一本寄贈した所以です。唯前に了解を得感謝しなかつたのが悪いかも知れぬが、つでもなく且つ私は非常な多忙な時にあつた。

岡本氏のエス和に依らぬ場合に依つた場合と大した違を生ぜぬと思つたと言ふのは次の様な理由なのである。依つても依らなくとも牛は bovo, 梅の實は pruno で大概の名詞は殆ど同じ結果である。光るは lumi, briĵo, 正直なは honesta の如く簡短で重要な動詞形容詞其の他の品詞は大概依つても依らなくとも同じなのである。唯幾分早く原稿が出来ると言ふ事は感謝すべき事である。依つたと依らぬに依つて差異の生じ易い場合は極少數のうろつくを徘徊するとするが如き熟語等の場合と御説の「衛生」を higieno とし「衛生の」を sanitara とし「暮し」を vivado とし「暮す」を

farti とするの類である。後者は私の和エスが岡本氏の和エスに依つた一番恥づべき缺點であらう。然しエス語が如何に語尾變化に依つて名詞とし動詞とする事が出来ると言つても名詞として適當な言葉もあれば形容詞として適當な言葉もある。エス和に higieno とあつて higiena とないのは名詞が根本であり名詞に適する事を示して居る。sanitara とあるのも形容詞として適するからで sanitaro は少し變ではあるまいか。「暮し」に vivado と共に fartado を入るは未だよいとして「暮す」に vivi を入れるのは變ではあるまいか。要するに名詞として適し形容詞として適する單語があるので「衛生」を higieno とし「衛生の」を sanitara と一方宛のみを擧げて大した缺陷は生じないと思つた。本の大きさの關係上一語一譯主義を取つた爲もある。況や和エスで「衛生」「衛生の」を引いて higieno, が無いならば使用者は非常な不更を感じるが立派にあるに於てなやである。

「甘やかしてやくざ者にする eldortoti」「一週年の日 datreveno」「化粧身仕度品一式 tuaĵeto」「ゆすつて寝かす luli」「のどをガラガラ言はす gargari, stereotori」等を擧げたに就いては私に大に主張がある。此等を始め「一周年祭」「手を組む」「しやがむ」「咳をする」「屁をひく」等と言ふ言葉は吾人の日常生活に極めて始終起る事であり重要な言葉であるに係はらず英語や獨逸語でも簡短に思出されぬやうに出来てゐる様な氣がする。エス語は單語が少いに係はらずかう言ふ重要な單語となると残らずある。且つ覚え易いやうに造つてある。此はエス語の私に對する第一の魅力と言つてもよい例へばのどをガラガラ言はすのは毎朝口をすすぐ時誰もやる事で而も gargari を思出し易くさへ出てゐる。ゆすつて寝かすは子供を寝かす場合は人抵ゆすつて寝かすので「ゆすつて寝かす」と言ふ言葉は「寝かす」と言ふ言葉より何倍重要か解らぬ化粧身仕度品一式」も結婚祝の贈物や女の事を敘述する場合極めて屢々使用したい概念であると思ふ。用語が生硬であると言ふが他にどう言ふ言ひ表はし方があらう。私は先づ岡本氏の用語に従つた方が無難と思つたから其ま載せた。

誤植の點も60頁當り迄は多いであらうが其後は四分の一或は五分の一位の率になつてゐるだらうと思ふ。

一々詳論したかつたが紙數が許さぬ。最初此の倍許りの原稿を送つたが長過ぎると返された。馴も舌に及ばずとか岡本氏の批評は私の和エスにとつて非常な打撃であつた。

更めて金井氏に

岡 本 好 次

貴下の駁論を讀んでやゝ的外れの御返答に接した様に思はれますのでこゝに一言御答致します。

實はあの論文は新撰エス和辭典使用者が屢々犯す錯誤（即ち同辭典中の日本語譯を鵜呑みにして和文エス譯に使用する事）に對する注意を喚起するのが主眼點だつたのです。（それで *tranĉilo*, *helpi* 等の如き貴著批判上價値の少い用例をあげた）。勿論併せて貴著の批評をもする心算でした。併し紙數の都合で二兎を逐ふの愚をしたのでごちらの目的にも添はぬ結果となつた事を怖れます。故にこゝに更めて小生の貴著に對する批評の要點を申し上げる事と致したい。小生は貴著が

- (1) エス和辭典を置換して編纂された點
- (2) 我々の日常使用せぬ語彙語句を持つ點
- (3) 見出し語の取舍撰擇の點
- (4) 一語一譯主義を原則とせられた點

に對して遺憾の意を表するものです。以下その説明と理由を略記します。

(1) 和英、和獨を翻譯して和エスを作る事はエス英、エス獨等を翻譯してエス和を作る事と相似であるがエス和を倒置して和エスとする事はそれとは大分懸隔がある。貴著が一目してエス和の倒置であるを見たのは小生一人でなく二三年エス語を勉強した人なら誰しも即座に認める所でその點が貴著が三高エス會や千布氏編纂の和エスと大いに趣を異にする所であると思ふ。小生は貴下が拙著を倒置された事を何等問題とせぬがこゝに遺方で和エスを編纂すると都合な點（貴下の云ふ如くそれは例外の例外の場合だけとは考へられない）が生じ易い事を遺憾とするので之については前論文で詳論した故こゝに再び述べない。唯貴下の抗辯にも拘らず小生の觀察では貴著中で拙著の置換によらざる語彙が全體で百語内外に過ぎぬと思つてゐます。

(2) 和エス辭典は我々が日常頭に浮ぶ日本語の語彙を收藏すべきでエス語直譯的語彙なんかは「見出し語」として採用すべきでないと思ふ。我々は和エス辭典を手にして「絹綿ビロード」（之は「ビロード」の項へ入れればよい）「甘やかして……」「一周年の日」「ゆすつて寝かす」「のどをガラ……」「化粧身……」「二つの中の一つを選ぶ事」「瘦せてゐる事」等の如き長い語句を引いてみるだらうか。

勿論日常必須の語だが誰しもこんな長い語句は引くまい。之は「甘かす」「一周年」「化粧」……等の語彙の次へ一段下げて入れられたら大い活用されたであらう。

(3) 懷中型字典は字數の制限をうけるもの故「見出し語」は極端に整理すべきである。その意味で「衛生」と「衛生の」、「北極」と「北極の」、「献身」と「献身的な」等の一方を省略しその代り一語に對する譯語を倍加して欲しかつた。

(4) 英エス、獨エスならまだしも和エスでは一語一譯主義は無理です。譯語は六ヶ敷い語や變な専門語の外に平易なものも入れてほしかつた（平易な方だけの方が尙更結構）。*Koliko* より *ventrodoloro* (*koliko* なんか文章で出遭た事もない) を、*hektometro* より *cent metroj* を *almanako* より *jarlibro* を。猶「半年 *semestro*」「三ヶ月 *trimestro*」等はない方がよかつた。

(5) 考證的偏狹をすてゝ大英斷を以て「北極 *arkto*」を挿入されたとは甚だ遺憾千萬です。同じ筆法で「日本語 *japano*」も入れられたのかしらぬが辭書にかゝる英斷は禁物。御説の如く *sanitaro* は (*arkto* と同じく) 變ですが「暮す」に *vivi* を入れるのが何故變でせうか。例へば千布氏和エスには『暮す:一 [生活] *vivi*, *vivteni*, *teni la vivon*, *sin subteni*; [消光] *pasigi* (*tempon*), *travivi*』とあります。

猶 *trauto* の如き貴下自身勝手に採用された語は * 印でも示してほしかつた。

(6) 貴下は親切第一を高唱されるが「軌道 *tramvojo*, *orbito*」「記録 *memuaro*, *rekordo*」等は區別のかいてない點や *aldon[met]i*, *buŝaj[pec]o* の如きは *aldon[met]i*, *buŝaj[pec]o* とでもして [] の中のものがどれだけの部分の代用として使用されるかを明示してほしかつた。

(7) 猶又貴下が拙著の譯語を過信せられて貴著編纂の際大いに御活用下さつたが拙著は既に版を重ねる毎に誤植や氣にいらぬ譯語を多少訂正し又今後も大いに訂正してゆく覺悟である事を申添へてをきます。*tualetto* の譯語の如きも *Kabe* の説明を直譯したのであんなものになつたのですが日本語の「化粧」とだけ譯したのでは何だか *pudrado* を意味するのみの様にされるのであゝしてみましたがま

さかあんなのが和エス辭典の見出し語として麗々しく出されることは意外でした。目下私は tualetto は「化粧, 身仕度, 化粧身仕度品(全體)」とでも改めてはどうかと考へてゐます。其他にも同様訂正を考へ中のものもあります。

以上種々申し上げましたが小生は貴下個人に對し何等恩怨無之又貴著の賣行を妨害するに何等必要あるにも無之(そんな偏狹な動機からではない)唯一遍エス語を思ふの至情より兎角書籍を盲信する傾向の多い初學者にとつて貴著活用上上述の如き點に對する注意を喚起したいと思つたので(杞憂かはしれぬが)貴著出現の禮讃の辭を書かず専ら批評がましい事を申上げて失禮しました。併し乍ら貴著が眞に貴下の信ぜらるゝが如き良辭典で小生の指摘した如きはホンの白玉上の微瑕に過ぎないものであるか否かは貴著を使用する人々の嚴正なる批判にまかせまじう。

貴下は小生のつまらぬ論文の爲貴著の大々

的賣行を妨害されたと御憤慨ですが(眞にエス界に良辭典なきを遺憾としての御出版なら賣行などは問題外とは思ひますが)永年の經驗によりますにエス語書籍は誇大の新聞廣告をしたとて何十版を重ねる事も不可能な代りに假令一人や二人の者の批難位は賣行に殆んど無影響です。と云ふのは大抵のエス書はそれを使用して便宜を得た人が他人に勧めるので賣れてゆくのだからです。右の次第故小生如きの一言にて貴著の賣行が左右さるゝものでなく貴著の賣行は貴著を使用して便宜を得た人々の増す事によつて増大する筈です。つまり貴著の眞價が貴著の販賣を擴大する譯です。(序に貴下の名譽のためあんな誤謬の多い「エス楷梯」を貴社から出版せられた事も大變遺憾千萬です。改版の際大訂正をなす様著者に御傳達を乞ふ。)貴著の賣行が貴下の豫想以上の好成績を収め小生の杞憂が杞憂たるに留まる事を祈りつゝ、擱筆。

新撰エス和辭典正誤表 (379頁へ續く)

「新撰エス和辭典」出版以來豫想外の好評を得て此處に廿版を賣盡しましたが今日迄に氣付いた誤植や不適當の譯語はその都度紙型を象筭訂正を致しましたが舊版の同辭典の誤植誤譯が金井氏の和エスにも影響ありしをみてその責務の一層重大なるに鑑みこの機會に訂正箇所を紹介し舊版御所持の方々の御参考に供する事にしました。猶今後とも譯語の妥當でない點等御氣付の節は御教示下さいませ様御願申上ます。今日迄誤植其他について御教示を賜つた方々に厚く御禮申上ます。特に醫學語彙に關しては鈴木正夫氏に感謝致します。下の表で*印のあるものは廿一版にも未だ訂正されてゐない分です。-の行は下より數へたもの。(岡本)

頁	欄	行	誤	正	頁	欄	行	誤	正
前付	1	—	2 翻	繙	64	左	-9	—folio	—folio
前付	5	—	6 使	便	67	左	-7	aféro	faro
	6	右	-3 —	蓄電池ヲ加フ	75	左	16	牛獅	半獅
*	7	右	-13 ズ	ズ	76	左	-9	屈	屈
*	10	右	-13 (NH ₄)	(NH ₄)	88	左	6	腫脹	膨大
	12	左	6 —	麻醉ヲトル	95	右	8	krpreol-o°	kapreol-o°
	15	左	13 健	腱	97	右	-13	肉息	息肉
	15	左	14 —	中風ヲトル	101	左	-6	囊腫	囊胞
	15	右	15 立方	平方	103	右	6	kaka-o	koka-o
	19	左	15 白屈菜(ダウ)	馬利筋(ダウ)	103	右	7	kakain-o	kokain-o
	19	右	18 —	障害ヲトル	108	左	-11	—	溢血ヲトル
	20	左	-5 —	瘦削ヲトル	108	右	11	konkir-i	konker-i
	22	左	12 —	【稱號】ヲ加フ	110	右	-6	kovertor-o	konvertor-o
	27	左	-12 痲疾	膿漏	114	左	-12	korestomati-o°	krestomati-o°
	33	右	14 萎黃病	疥癩(皮膚紫變)	116	左	7 (オミ)	(オミ)	
	51	右	-10 血塞	血栓	121	左	7	perter-i	preter-i
*	58	左	16 —	; 自製のヲ加フ	122	左	5	トシムル	トシムル
	62	左	11 —osingno	—osigno	122	右	20	昏睡, 假死	嗜眠

★最も手近な宣傳方法

よく海外通信に際して Esp-isto でありながら舊式のヘボン式ローマ字を自分の住所姓名を書くのに使ふ人が時々あるが、Esp. を宣傳する以上 Esp. 式ローマ字を使つてはと詰むると、平然として Esp. 式の Cu や Ja はなかなか「つ」「や」と通用しないからと云ふ様な答にこちらが啞然として二の句のつげない事がある。何事によらずこんな調子では宣傳が出来る筈がない。宣傳に努力せぬ以上通用する筈があらうか實に馬鹿氣な無爲無能ではある。更にこの連中の中に U.E.A. の delegito や其他雜誌の peranto を見出して實になんとも云えぬなさげ無さを感じた。商賣人は問題外としてもこんな調子でデレギートで御座いでは U.E.A. の praktikeco も泣くにも泣かれぬであろう。しかも方法は既に昨年の六月以來柄平として我々の利用を待つてゐるに於てをやである。

云ふまでもない、昨年官報を以て我國も Stockholm の萬國郵便電信會議に従つて Esp. を所謂「平語」として認めるに至つた。これを利用しないでは Esp-isto の名がすたる。即各自所轄の郵便局局長並に外信係宛に以上の事實を明記して自分の宛名はこの「平語」Esp. によつて書かれて来るから注意してくれと書いて出せばよいのである（日本のローマ字は平語でないどころか本家の日本語そのものまで平語でないことに御注意）。しかもこれは「通信事務」で切手は不要、只だから如何に sparema な delegitoj と雖も會員の會費を perit した手数料の中から、これ位の勞は取つて各會員に注意してほしいものだ。其他各自にこれをすれば立ちどころに郵便局を通して Esp. の「平語」たる事を輝かし引いて大に我宣傳となる事既に先づ始めた槐の經驗より太鼓ばんを捺す事件の如し。

(Kapro)

本年最終號の編輯當番となりましたが最終號ですから別に新しい事は試みませんでした。來年に續くものは宇都宮氏の Notoj pri l'Biblio と淺井教授のインドネヂヤ民族のお話しがあります。新年號からは表紙ももつとあつさりとして氣の利いたものになる筈で、その他種々の新機軸が出される事と思ひます。金井氏の和エスに關して他にも投稿がありましたがこの問題は本號で打切りいたします。

會 員
の 聲

★金井氏へ一言

貴君の御努力の結晶？和エス辭典が現はれたことは我々にとつて或意味に於てよるこばしいことです。然しそれが我々に満足な與へてくれなかつたのは別問題として貴君言及して居られる〔手頃〕なことは何を眼目としたものでせうか？誤植に對しては何も申しませんが我々が待ち望んで居る〔手頃な〕和エス辭典とははるかな差異がありますのに。

貴君の出版物に對してエスペラント間に論議が惹起されたのは我が國のエスペラント熱がそれほど盛であることを證明するものでありませう、我々がそうした日の下に生れたのは大へんによるこばしいことです、それと同時に我々は向後邪道的、投機的エス書出版に對す物る警戒の眼を養成する必要が生じて來ます。

貴君の御努力には感謝します。和英佛獨辭典を克明に繰られたこともたしかでせう、然し專斷的文字を他國の慣用語から誘引して造り上げる態度は將にエスペラント界の反逆者であります。その上意味のはきちがへの文字が徹見します。丁度一方に下駄をはき他に靴をはいた時の足の感じの様に。之は要するに貴君が他國の辭典からそのまゝ持つて來たからです。輸入するには檢閲が要るのですのに貴君の辭典には密輸入的の文字も少くありません、而も日本語とエス語の持つ意味を充分に會得されて居られない様に見受けます。

斯の如き理由から小生をして一言にて云はしむれば貴君はエス語をもつともつと御勉強なさる必要があると同時にそれ以上の努力を日本語の持つ意義をば深く深く御研究されれば立派な辭典は造り得ないを申し上げても多言ではなからうかと存じます。(11. 15)

露 木 清 彦

編 輯
後 記

Stranga Songó は Novial から譯されたものですが國際語に對するよい警めで Novial 自身にも幾分この傾向があるやうに思はれます。

廣告第四頁にある通り年賀狀を印刷いたしますからお早く御申込みを願ひます。官製ハガキの點に御注意下さい。

附録として大會報告書が入つてゐますがその外に土岐善麿氏より御寄贈のエス文ローマ字宣傳を添附いたしました。土岐氏に厚く感謝いたします。(伊藤)

學會取次洋書目錄

★洋書は如何なる場合でも前金注文でなければお送り致しません★

~~~~~ ザメンホフ博士譯著書 (多數在庫) ~~~~~

|                                        | 定價圓(送料錢)                                |
|----------------------------------------|-----------------------------------------|
| ★Fundamento de Esperanto .....0.65 (4) | ★Ifigenio en Taŭrido .....0.80 (4)      |
| ★Fundamenta Krestomatio .....1.30 (8)  | ★Hamleto .....0.70 (4)                  |
| ★Lingvaj Respondoj.....0.70 (4)        | ★Andersen, Fabeloj 二卷.....各 0.80 (4)    |
| ★Aldono al la Dua Libro .....0.25 (2)  | ★Rakontoj el Biblio.....0.30 (2)        |
| ★Marta .....1.30 (6)                   | ★Proverbaro Esperanta .....0.70 (4)     |
| ★La Rabistoj .....0.80 (4)             | ★Post la Granda Milito .....0.06 (2)    |
| ★La Revizoro .....0.80 (4)             | ★Originala Verkaro...7.50 (内地27, 植民地55) |

## ~~~~~ 新 着 書 ~~~~~

|                                                                    |                     |
|--------------------------------------------------------------------|---------------------|
| ★Je la Nomo de l' Vivo 人世のどん底を語るプロ作家 E. Izgur の小品隨筆集 .....1.10 (4) |                     |
| ★Kandid 佛革命前の大思想家 Voltaire の大傑作、譯は SAT の主筆 Lanti.....0.95 (4)      |                     |
| ★Prologo プロ詩人 E. Miĥalski 二十五年間の創作詩集、放縱自由な自己表現 .....0.40 (2)       |                     |
| ★Petro プロレタリア用エス講習書、配材適切、良書.....0.40 (2)                           | } 二冊で .....0.55 (2) |
| ★Labor-Kajero 上記 Petro の教室用ノート必携 .....0.18 (2)                     |                     |
| ★Karlo Privat 博士の讀本用小説、中等講習讀物に好適(多數在庫) .....0.25 (2)               |                     |
| ★Kiel akiri bonan stilon? エス文上達法、知名の作家 Zanoni の一家言 .....0.03 (2)   |                     |
| ★Faŭsto I. ゲーテの傑作哲學韻文劇、別冊 Komentario 附 .....二冊で 0.80 (4)           |                     |
| ★Prof. P. Christaller: Deutsch-Esperanto Wörterbuch .....6.50 (8)  |                     |
| ★Eĉ en Doloro ni estu Ĝojaj 奇才アデルカム女史の病床上隨筆、繪入 .....0.35 (2)       |                     |
| ★Pri la kredo al mirakloj 聖書中の奇蹟の科學的説明、W. Winsch 博士著 .....0.25 (2) |                     |
| ★Atta Troll 獨逸の詩聖ハイネの長篇詩、譯者は Zanoni .....0.80 (2)                  |                     |

~~~~~ 再着在庫 (解説は Revuo 前數號を見よ) ~~~~~

~~~~~ 原 作 文 藝 ~~~~~

| | |
|---|--------------------------------------|
| ★Saltego trans Jarmiloj.....2.85 (8) | ★Laŭroj 名作集0.80 (4) |
| ★Bukedo I, II. 二巻で.....0.60 (4) | ★Tajdo, Hohlov の詩集.....0.65 (2) |
| ★Tri Angloj Alilande 小説.....0.55 (2) | ★Stranga Heredaĵo 小説.....2.85 (8) |
| ★Ginevra, Privat 著劇0.15 (2) | ★Malriĉa en Spirito 劇0.30 (2) |
| ★Krioj de l' Koro 詩集0.15 (2) | ★Sep Rakontoj 小説集0.55 (4) |
| ★Lilio, Sinnotte 夫人作小説.....1.35 (6) | ★Perdita kaj Retrovita0.10 (2) |
| ★Vortoj de Cart 論說集.....1.10 (6) | ★Intima Libro de Esp.0.30 (2) |
| ★Vi, sola Esperanto povas0.18 (2) | ★Du Rakontoj 小説二編0.30 (2) |
| ★Modernaj Robinzonoj0.85 (2) | ★Mondo kaj Koro 詩集0.25 (2) |
| ★Preter la Vivo 詩集.....1.10 (2) | ★Hundo Parolanta 喜劇.....0.25 (2) |

~~~~~ 翻 譯 文 藝 ~~~~~

| | |
|--|--|
| ★Morto de Danton, A. Tolstoj0.85 (2) | ★Elekt. Humoraj Rakontoj0.20 (2) |
| ★Natan la Saĝulo, Lessing 劇1.00 (4) | ★Aelita, A. Tolstoj 小説1.70 (6) |
| ★Fatala Ŝuldo 小説1.10 (6) | ★Kantistino, Hauff 作.....0.40 (2) |
| ★Kio povas okazi 小説0.20 (2) | ★Venecia Komercesto 沙翁劇.....0.80 (4) |
| ★Sonĝo de Somermeza Nokto 劇...0.40 (2) | ★Aspazio, Leon Zamenhof 譯0.80 (4) |
| ★Portreto, Gogol 劇0.55 (4) | ★Mimi 小説 Payson 譯.....0.40 (2) |
| ★Ruĝa Floro ガルシン作0.10 (2) | ★Du Noveloj, Jokai 小説0.45 (4) |
| ★Luno de Izrael, Haggard 作1.90 (6) | ★Sinjoro Vento kaj S-ino Pluvo ...0.40 (2) |
| ★Kalifo Harn Alraŝid0.15 (2) | ★Karto Mistera, Payson 譯0.30 (2) |
| ★Tatterly 犯罪小説.....0.55 (4) | ★Nevo kiel Onklo, Schiller 喜劇 ...0.20 (2) |
| ★Barbra, Jerome K. Jerome 劇...0.55 (2) | ★Manon Lescaut 小説1.10 (4) |
| ★Malnovaj Paĝoj 小説集0.40 (4) | ★Malbela Anasido, お伽噺0.05 (2) |

- ★Bombasto Furioza 喜劇0.10 (2)
 ★Boks kaj Koks, Morton 喜劇.....0.15 (2)
 ★Aventuroj de Lasta Abenceraĵo ...0.15 (2)
 ★Camera Obscura 小説0.70 (4)
 ★Mallumaĵo 小説0.20 (2)
 ★Reĝo Lear 沙翁劇1.45 (6)
 ★De Alpeninoj ĝis Andoj0.30 (2)
 ★El la Landoj de Ruinoj0.12 (2)
 ★Kaatje, Spaak 作の劇0.80 (6)
 ★Sokrato 劇.....0.65 (6)
 ★Advokato Patelin 劇.....0.30 (2)
 ★Fundo de Mizero 小説0.30 (2)
 ★R-U-R 劇『人造人間』1.00 (6)
 ★Karavano, Hauff 作小説.....0.55 (2)
 ★Cavalleria Rusticana 劇0.35 (2)
 ★Internacia Mondliteraturo 世界代表文藝叢書各號 0.70 (4)、倍號 1.40 (6)

- | | | |
|-----------------------------|----------------------------|--------------------------|
| 1. Hermano kaj Doroto | 8. Nuntempaj Rakontoj | 16. Noveloj, Sienkiewicz |
| 2. Legendoj, Niemojevski | 9. Hebreaĵ Rakontoj | 17. Insulo de Feliĉuloj |
| 3. Elekt. Noveloj, Turgenev | 10. Tri Noveloj, Puŝkin | 18. Barbaraj Prozajoj |
| 4. La Nigra Galero, Raabe | 11-12. Deklaracio, 有島 | 19. Ano de l' Ringludo |
| 5. Camera Obscura | 13. Ses Noveloj, Allan Poe | 20. Servokapabla! |
| 6. Skizlibro, W. Irving | 14. La firmao, Balzac | 21. Nobela Peko |
| 7. Petro Schlemiel | 15. Orientaj Fabeloj | |

★EBI 叢書.....各號 0.18 (2), 倍號は 0.36 (2), 三倍號 0.54 (2)

- | | | |
|----------------------------|----------------------------|-------------------------|
| Bona Sinjorino, Orszesko | Reaperantoj, Ibsen (倍號) | Instituto Milner 戀愛學校 |
| Rusaj Rakontoj, Sibirjak | Komerca Korespondo 商業文 | Noveloj el Nigra Arbaro |
| Don Kihoto Servantes | Konsiloj pri Higieno | Intervidiĝo |
| Praktika Frazaro 會話 | Reĝo de Ora Rivero, Ruskin | La Patrino, Ernst Zaan |
| Japanaj Rakontoj, Ĉif (倍號) | Lasta Usonano, Mitchel | Elzasaj Rakontoj |
| Amoro kaj Psiĥe, Apulejus | Hungaraj Rakontoj | Sub la Neĝo (三倍號) |
| Bulgaraj Rakontoj, Vazov | Nordgermanaj Rakontoj | Amkonkurantoj, Schmidt |

★Ilustrita Biblioteko各輯 1.10 (4)

第 I 輯 東洋物語(四冊) 第 II 輯 海の物語(四冊)

★Tutmonda Biblioteko 世界名著叢書第 I 輯六冊、第 II 輯五冊各輯 2.00 (8)

I: Mateo Falcone; Malgranda Johano; Memdisciplino; Norda Vento 等

II: Grekaj Papirioj; Kapitanfilino; Homa Lingvo, Bonhumoraj Rakontoj 等

~~~~~ 科學社會宗教其他 ~~~~~

- | | |
|---|--|
| ★Laborĉarto 労働大憲章0.12 (2) | ★Fotografia Optiko 寫真光學.....0.35 (2) |
| ★Artefarita Altmontarsuno0.10 (2) | ★Monadologio de Leibniz0.15 (2) |
| ★Kormalsanoj 心臟病.....0.40 (2) | ★Teknika Vortareto 教育、心理學...0.20 (2) |
| ★Evoluo de Telefonio0.55 (2) | ★Internacia Farmacio1.65 (18) |
| ★Sendanĝereco de Francujo0.50 (4) | ★Fundamento de Kvakerismo.....0.95 (6) |
| ★Etiko, Kropotkin1.00 (6) | ★Higieno kaj Moralo0.35 (2) |
| ★Komerca Vortaro1.00 (2) | ★Internacia Kantaro Tekstaro0.80 (2) |
| ★Franca Gramatiko.....0.35 (4) | ★音符:—La Espero0.15 (2) |
| ★Evangelio de Horo0.08 (2) | ★音符:—La Vojo0.10 (2) |
| ★Varmkulturo 熱療法.....0.45 (4) | ★音符:—Brilas la Esper'0.06 (2) |

Heroldo de Esperanto

特別見本號あり、一部 10 錢、送料 2 錢。御申込み下さい。

小坂岡本校閲 城戸崎益敏編

エスペラント單語カード

定價 1圓70錢
送料 12錢

堅牢なる紙箱入 720 枚(外に白カード數十枚)

★語數——720 合成語——3500 文例——2800★

單語は單語そのものとして、覺へずその用法を文例に於てのみこむことが肝要である。その内容の充實せる、印刷の美麗なる、價の廉なる、本邦で發賣の英語や獨逸語のカードに比して數等優れるものである。其内容は

- 1) 語數——最も基本的なる 720 語。それより誘導さるる合成語 3500 を擇んだ。
- 2) 文例——約 2700. 興味ある用法を Zamenhof の著書其他より引用した。
- 3) 動詞の支配——各動詞は凡てその支配する格及前置詞を明示した。

故に初學者は單語の記憶に、中等の學習者はエス文和譯の研究に、高等の學習者は和文エス譯の研究書として使用すべく、實にエスペランチスト必携の好伴侶である。

★エスペラント文例集

(定價 1圓70錢)
(送料 8 錢)

上記「カード」は Z 博士其他の文例を記載せるもの故書籍の形で活用したいと希望せらるゝ方のため同一内容のものを四六倍大判 150 頁に印刷せしもの。紙質上等。朱色枠入二色刷の贅澤版。

ザメンホフ博士原著 岡本好次和譯 解題並増補〔譯者裝幀〕

リングヴィ・レスポンドイ

菊半截美裝 137 頁・定價 50 錢 送料 4 錢

Esperantisto 必携の Lingvaj Respondoj (Plena Kolekto) を和譯し(74 頁)之に 11 頁の索引をそへ猶 Dietterle 博士著の “D-ro Zamenhof, Originala Verkaro” から蒐集した 37 箇の Respondoj (30 頁を占む)を増補し尙 L. R. のなりたち性質等について詳述した解題をそへた故エス語研究者は何人も之を座右に備へねばならぬ。

この内容! この廉價!

財団法人 日本エスペラント學會發行

東京市牛込區新小川町 3 の 15 ★ 振替口座東京 11325 番

本邦で出版の 學會取次書其他目錄 (註文は前)(學會の振替口座は) (金に限る)(東京 11325 番)

| 價目 送料 | 價目 送料 |
|--|-----------------------|
| ★ザ博士演説集……………0.80 .4 | ★緑の星に憧れて……………1.20 .8 |
| ★夜の空の星の如く(同上和譯) ……0.80 .6 | ★新賢王(エス文)……………0.30 .2 |
| ★我國における外國語問題とエス…………0.60 .4 | ★悪夢(エス文)……………0.20 .2 |
| ★カルロ(四方堂版)……………0.20 .2 | ★大成和エス辭典……………4.80 .18 |
| ★心の片隅……………0.50 .2 | ★模範エス會話……………1.20 .4 |
| ★詩集花束……………0.80 .4 | |
| ◆日本語エスペラント小辭典(三高)[普及版]((値下))……………0.50 .2 | |
| ◆模範エスペラント獨習(秋田、小坂共著)[普及版]……………1.00 .8 | |
| ◆日・エス・支・英 會話と辭書……………[普及版] 0.65 .6 [上製] 0.85 .6 | |
| ◆エスペラント絹ハンケチ [本誌七月號] A種 85 錢……………B種 75 錢……………送料各 2 錢
[廣告のもの] (B種は週名入です。希望の曜日申出の事) | |
| ◆寡婦マルタ(改造文庫版) 清見氏エス語より和譯……………0.30 .4 | |

★エス年賀狀

來春使用の年賀狀を新しく賣出します。但し官製ハガキ二度刷のものですから印刷部數を制限せねばなりませんから來る十二月十日迄に當會宛(學會着の事)ハガキにて至急申込下さい。代金の方は四五日遅れても差支へがありません(振替は一週間程かゝりますからハガキで別に御通知下さい)。當方より廿日迄に貴方に到着する様送附します。多少宣傳の意味をふくめたもの故同志間でない方への年賀狀にも御利用下さい。50枚以下取扱はず。賣價(送料共) 50 枚につき 1 圓の割。

★新撰エス和辭典附録

Kvara Oficiala Aldono 一覽表

(本年度會員名簿第 27-23 頁へ收載せしもの)

御入用の方は郵券二錢封入御申越下されば御送り致します。

ISK

本紙十月號廣告のもの。Politika revuo por la Klaskonscia laborularo.
見本數部あり。御入用の方は一部送料共 22 錢

第七回日本エス學會正維持員芳名

| | | | | | |
|-------|-------|-------|------|-------|------|
| 片上昌夫 | 川俣浩太郎 | 須々木貞子 | 花島順 | 中山知雄 | 藤永隆子 |
| 勝直吉 | 上野克巳 | 長谷川丈平 | 山本一夫 | 竹中守人 | 松本散華 |
| 中原脩司 | 鹽井年男 | 鈴木康三 | 高橋東一 | 森山儀市 | 古關吉雄 |
| 宗近眞澄 | 藤原三千丸 | 須永達雄 | 隅谷信三 | 長谷川三郎 | 友田勇 |
| 岡村幸三 | 關克巳 | 新池保 | 中野昇一 | 佐竹正三郎 | 生駒篤郎 |
| 河村徹 | 中村之根 | 下村鑛造 | 河村濟治 | 菅原慶一 | 堀田麻子 |
| 兼氏富美子 | | | | | |

新賛助員

岩下守四郎

西田正二

須賀舜光

波多野正信

露木清彦

東京市牛込區
新小川町 3 の 15

財團
法人

日本エスペラント學會

振替口座
東京 11325 番

財団法人 日本エスペラント學會發行圖書其他

| | 價 | 送料 |
|----------------|------------------------|--------|
| エスペラント捷徑 | 最新最良の獨習書…………… | 1.00 6 |
| エスペラント講座 | 外國語を知らぬ人の獨習講義録…………… | 0.50 4 |
| 新撰エス和辭典 | 語數一萬五千餘、譯語正確、索出至便…………… | 0.75 2 |
| エスペラント講習用書 | 文法教科書と讀本とを兼ね…………… | 0.35 2 |
| エスペラント短期講習書 | 大きな活字で要領よく編輯した…………… | 0.20 2 |
| エスペラント初等讀本 | 挿繪入程度低く小中學生にも適す…………… | 0.30 2 |
| エスペラント中等讀本 | 興味深き讀み物數十篇を収む…………… | 0.30 2 |
| エスペラント發音研究 | エス語發音上の疑問を氷解す…………… | 0.30 4 |
| 點字エスペラント文法・小辭典 | 盲人用獨習書兼字引…………… | 1.00 6 |
| エスペラントやさしい讀み物 | 笑話廿二篇を對譯詳註し興味横溢…………… | 0.10 2 |
| 愛の人ザメンホフ | エス語創案者ザ博士の傳記…………… | 0.80 6 |
| リングヴィ・レスポンドイ | ザ博士の言語上の解答を蒐む…………… | 0.50 4 |

~~~~~ エスペラント對譯詳註叢書 ~~~~~

|              |                             |        |
|--------------|-----------------------------|--------|
| 1. マテオ・フアルコネ | 「カルメン」の作者メリメの名篇……………        | 0.35 2 |
| 2. ハイネ詩集     | 情熱詩人ハイネの詩數十篇……………           | 0.40 2 |
| 3. 魔法使       | ザイデルの爐邊物語中の一篇……………          | 0.40 2 |
| 4. 代理通譯      | 一幕物抱腹絶倒さす程の大滑稽劇……………        | 0.40 2 |
| 5. 愛ある處神あり   | 杜翁の短篇。附録「エス學習書籍解題」植字中       |        |
| 6. レイモント短篇集  | 「農民で」有名な波蘭文豪レ氏の短篇二篇……………植字中 |        |

~~~~~ エスペラント書き日本叢書 ~~~~~

| | | |
|--------------|--------------------|--------|
| 1. 骸骨の舞跳 | 秋田雨雀戯曲三篇…………… | 0.40 2 |
| 2. 倫敦塔 | 夏目漱石原作 西博士エス譯…………… | 0.15 2 |
| 3. 惜しみなく愛は奪ふ | 有島武郎原作 東宮氏エス譯…………… | 植字中 |

| | | |
|-------------|---------------------------------|---------|
| エスペラント單語カード | 七百二十語に一々用例を示す…………… | 1.70 12 |
| エスペラント文例集 | カードと同一内容の本…………… | 1.70 8 |
| エス演說會話レコード | 小坂氏吹込兩面…………… | 1.20 40 |
| エスペラント便箋 | 正百枚一冊…………… | 0.20 4 |
| エスペラント封緘紙 | 八十枚入一袋…………… | 0.20 2 |
| エスペラント手拭 | 三越特製上等…………… | 0.20 2 |
| 日本風景風俗エハガキ | 四枚一組三色刷エス説明入…………… | 0.10 2 |
| 緑星章 | 甲種(安全ピン止) 乙種(背廣用) 各 (送料共)…………… | 0.30 - |
| | 丙種(安全ピン止特製) 丁種(背廣用特製) 各…………… | 0.50 6 |
| 緑星カウスボタン | (箱入一組)…………… | 1.20 6 |
| 緑星旗 | 紙製綠地に白く「エスペラント」と抜く。十枚(郵税共)…………… | 0.15 - |

| | | |
|--------|------------|--|
| [無代進呈] | 『宣傳の葉』 | { 百枚以下無料 (但送料卅枚毎に四錢)
百枚以上百枚毎に實費送料共六十五錢 |
| | 『宣傳のチラシビラ』 | { 三百枚以下無料 (但送料百枚毎に二錢)
三百枚以上は百枚毎に實費送料共十錢 |

我國に於ける 에스ペラント普及・研究・實用の中心機關

財團 日本 에스ペラント學會

【東京市牛込區新小川町三の十五】 【振替口座東京 11325 番】

◆すべての運動は大眾の協力に俟たねばならぬ。今や 에스ペラント普及運動は最も多
 衆の協力を必要とする時だ。各地同志の大同團結が必要だ。個々人の叫びは個々人の
 叫びにすぎない。大眾の叫びは輿論の喚起だ。組織だつた協力こそ眞の力だ。

◆ 에스ペラントを愛するものは誰しも御入會下さい。(會員は法規上維持員とよぶ)

- | | |
|-----------|--|
| 目 的 | エスペラントの普及、研究、實用 |
| 事 業 | (a) エスペラントに関する各種の研究調査及其發表
(b) 雜誌及圖書の刊行等
(c) 講演會、講習會の開催及後援
(d) 其他本會の目的を達成するに必要と認むる事業 |
| 會 費 | (a) 普通維持員 年額 2 圓 40 錢 (b) 正維持員 年額 3 圓
(c) 贊助維持員 年額 5 圓 (d) 特別維持員 年額 10 圓以上
(e) 終身維持員 一時金 100 圓以上 |
| 入會手續 | 住所、職業、姓名(振カナ付)を明記し會費一年分を支拂へばよ
い。(振替送金最も安全) |
| 會 員 の 典 特 | 1. 毎月研究雜誌“La Revuo Orienta”の配布をうく
2. 出版圖書の割引をうくることあり
3. 語學上の質疑其他一般の問合の返事をうく
4. 宣傳の「菜」その他宣傳材料を無料でうくることを得 |

詳しいことは直接お問合せ下さい

役員名簿 (五十音順)

| | | | | |
|-----|----------|----------|-----|---------------------|
| 理事長 | 理 學 博 士 | 中村 精 男 | 理 事 | 美野田 琢 磨 |
| 理 事 | | 秋田 雨 雀 | 同 | 慶大教授醫學博士 望月 周 三 郎 |
| 同 | | 上野 孝 男 | 同 | 東京朝日新聞顧問 柳 田 國 男 |
| 同 | 東京女子大學教授 | 河崎 な つ | 同 | 鐵 道 技 師 小坂 狷 二 |
| 同 | 中央大學教授 | 川原 次 吉 郎 | 同 | 大 井 學 |
| 同 | 帝大教授文學博士 | 黒板 勝 美 | 同 | 三 石 五 六 |
| 同 | 政治教育會長 | 小林 鐵 太 郎 | 監 事 | 高層 氣 象 臺 長 大石 和 三 郎 |
| 同 | 専修大學教授 | 高楠 順 次 郎 | 同 | 東京府會議員 木 崎 宏 |
| 同 | 帝大名譽教授 | 土岐 善 麿 | 同 | 清水 勝 雄 |
| 同 | 文學博士 | 西 成 甫 | 同 | 帝大教授 授爵爵 穂 積 重 遠 |
| 同 | 東京朝日調查部長 | | 同 | 法學博士 男 三 島 章 道 |
| 同 | 帝大教授醫學博士 | | | |

本誌購讀料 (郵税別)

| | | |
|-----|--------|-------------------|
| 一 部 | 圓 0.20 | 學會持維持員には
無代頒布す |
| 半年分 | 圓 1.20 | |
| 一年分 | 圓 2.40 | |

本會振替 { 一 般 { 東京 11325 番
 口座番號 { 會計用 { 長 野 3283 番
 { 基本金專用東京 32089 番

昭和四年 十一月十五日印刷

昭和四年 十二月 一 日發行

編輯兼 大 井 學
 發行人

印刷人 高 見 澤 保 芳
 (一 匡 印 刷 所)

發行所 東京市牛込區新小川町三ノ一五
 財團 日本 에스ペラント學會